

再
刺
日
本
立
志
編

名
脩
身
規
範
干
河
岸
貫
一
著
述

雷
380
1

千河岸貫一著

日本立志編

一名脩身規範

板權所有

雙書房合梓



志之取達

榮利不求

門口
雅 380
卷 1

大隈信常氏贈

忠之至

榮利不求



大隈信常
氏寧贈

門口

蹄 380

A red seal and a black ink mark are located in the bottom right corner of the page.

日陳京相及土爰湯元一邱先生

馬玉

市原三月念五

福地源



日本立志編序

凡ソ書ヲ著スルノ要ハ以テ世ヲ益スルニア
リ以テ物ヲ利スルニアリ以テ人心ヲ改良ス
ルニアリ以テ風俗ヲ矯正スルニアリ詞章巧
妙能ク時好ニ應シ為メニ洛陽ノ紙價ヲ傾ク
ルノ著書アルモ苟モ世ヲ益シ物ヲ利スルノ
効ナク却テ風俗ヲ紊リ世弊ヲ培養スルカ如
キアラハ余ハ秦帝ヲ地下ニ起シテ之ヲ焚カ
ント欲スルナリ近時書ヲ著スル者多クハ古

日本書紀卷之六
俗、通弊ヲ逐フテ時好ニ投スルヲ專務トナシ唯利ヲ射ルヲ目的トスルヨリ著書ニ生スルノ弊害亦大ナリ豈慨歎ニ勝ユヘケンヤ頃日櫻所干河岸君日本立志編ノ著アリ携へ来リテ序ヲ余ニ屬ス余受ケテ而ノ之ヲ讀ムニ我國今古哲人ノ言行以テ世ノ模範トナスベキモノヲ撰録シテ附スルニ論評ヲ以テ人其文巧妙其論正當人ヲシテ志ヲ立テシムルニ足ルモノアリ真ニ世ヲ益シ物ヲ利スルノ良

書ト謂フヘキナリ且夫レ此書ヲ著スル人ハ即チ日々操觚ニ從事スルノ新聞記者ニシテ其餘力能ク此ニ及ヘリ其氣力ノ壯ナル怠惰余ノ如キモノヲシテ亦志ヲ立テシムヘシ此書一タヒ出デハ其世道ヲ補フノ効歟カラザルヲ知ル是レ余ノ辭セズシテ一言ヲ爲ス所以ナリ

明治十三年三月僑居於浪華

藤田茂吉撰



緒言

曩キニ敬宇中村翁ガ、自助論即チ西國立志編ノ譯アリ。其書一タビ出ル。人爭テ之ヲ購フ。其書ヤ。看者ヲシテ能ク一讀ノ下ニ。剛毅耐忍ノ貴フベク。勉強刻苦ノ重ニスベキヲ知リ。感發興起スル所アラシム。維新以來。洋籍ヲ翻譯スル者。陸續梓ニ上ボリ。汗牛充棟スト雖氏。翁ノ自助論ノ如ク。流播セシ者少ナシ。是化無シ。スマイルス氏ノ著タル。其歸旨ハ。專ラ世道人心ニ影響シ。有爲ノ志氣ヲ振ヒ。自助ノ精神ヲシテ。活潑ナラシメントスルニ在リ。字々句々。ミナ身ヲ立テ家ヲ興スノ金言格論ニシテ。一モ間話何語ヲ録セシ者ニアラザルヲ以テナリ。若シ唯文章ノ婉麗ナル措辭ノ巧妙ナルヲ以テ。空中ニ樓閣ヲ架シ。正中奇ヲ出シ。有中

無ヲ生シ。變幻恠奇。以テ一時ノ聲譽ヲ博セントスルモノ
ノ如キハ。假令人々相傳ヘテ之ヲ稱歎シ。洛陽ノ紙價爲メ
ニ騰貴スルニ及ブモ。天下後世ニ至ルマデ。人ノ之ヲ傳フ
ル者ニ非ス。六一居士ノ所謂。啼鳥好音ノ耳ヲ過ケル。殊
ナラサルナリ。是則チ古來文人詩客。タ多シト雖。其
大家其人ニ乏シカラズト雖。其天下後世ニ稱譽セラル
ルコハ。筆紙自ラ樂ミ。議論文章ノ人ヲ驚カスモノ無キ
顏回ニ及バザルコト速キ所以ナリ。然リト雖。其言文ナラザ
レバ。傳ハラズ。亦人心ヲ感發スルニ足ラス。彼自助論ノ如
キ。其著固ヨリ金言格論。其譯語亦穩當正雅ニシテ。文藻ノ
婉麗ナル。他ノ譯書ノ間。文意通暢。難キ者アルヲ類ト。日
ヲ同フシテ語ル可キヲアラス。是其書ノ世ニ傳播シテ。久

ク行ハル。所以ナルハシ

余客年來餘暇アル毎ニ。我邦古來ノ事蹟ヲ諸書中ヨリ抄
録シ。每章其感觸セル意想ヲ附記シテ論評。先ツ頃。積ム
テ卷ヲ成シ。題シテ日本立志編トイフ。斯書固ヨリ文章字
句ノ讀者ヲシテ感發セシムルニ足ル者ナク。又世道人心
ニ裨益スベキ。格言ヲ吐クノ學識無ケレバ。唯古來ノ事蹟
ヲ記述セルノミ。又彼スマイルス氏ノ自助論トハ。体裁稍
異ナルナリ。
彼ノ自助論ハ。人ニナ立志編ト稱スルヲ以テ。斯書亦彼
照則模擬セシ者ナルベシト思フ人多カレン。然レモ。彼レ
古人ノ事蹟ヲ掲ゲサルニハ非レモ。天ハ自ラ助タル人
ヲ助タルノ理ヲ論ズルヲ以テ。通篇ノ脈絡トス。此レハ。毎

篇古來人士ノ事蹟ヲ舉ゲテ、以テ輒近ノ人情世態ニ比對
シテ、評論スルニ止マル。一ハ自助ヲ以テ主論トシ、一ハ忠
厚ヲ以テ本旨トス。西國立志編ハ、多ク學者工ノ事蹟ヲ
引ッ、日本立志編ハ、首トシテ孝子節婦忠臣義僕若クハ明
主賢臣、善人勇士ノ事蹟ヲ掲グ、甲ハ人ヲシテ勉強忍耐、以
テ身ヲ立テ家ヲ興サシメントスルニ在リ、乙ハ風俗漸ク
奢靡ニ赴キ浮華ニ流ル、ノ弊習ヲ矯ル、一端供スル
ニ在リ、故ニ斯書ヲ立志ト名クル所以ハ、孟子ノ所謂、頑夫
無志、懦夫有志ヲ立ツル云々ノ語ニ根據シ、古來忠厚謹
毅、困苦セル人ノ風ヲ聞テ、起ツ者アラント庶幾スル
意ヲ寓ス。名ハ則チ相似タリト雖、此主義トスル所異同
アリ、此ハ如シ。

人アリ或ハ言ハシ。人ノ志氣ヲ獎勵スルニハ、既ニ自助論
ノ在ルアリ。何ッ學藝技術未ダ大ニ開ケザリシ、我邦ノ事
蹟ニ就テ、云々スルヲ須クンヤト。余以爲ク然ラズ。夫レ我
邦固有ノ忠厚ナル風尚ヲ振起シ、之ニ申サスルニ、西人ガ
忍耐強毅ノ氣風ヲ以テセバ、其富強文明、遠ク歐洲諸邦ニ
陵駕スルノ日アルヲ期スベシ。若シ然ラズ、秦而剛毅
堅忍ノ習俗ヲ學ブノミニシテ、古來ノ良風美俗タル、忠厚
易直、儉素謹慤等ノ氣象ハ、漸ク地ヲ掃フニ至ラハ、則チ左
手ニ得テ右手ニ失シ、一歩ハ進ミ一腳ハ退クト、何ゾ殊ナ
ランヤ。是レ余中村翁ノ譯セル者ト。其体裁ト主義ヲ異別
シ。日本固有ノ良風美俗ヲ記述スル所以ナリ。庶幾タハ讀
者ヲシテ、風節ヲ勵マシ、行義ヲ慎マシムルノ一助タラン

了ヲ故ニ一ニ脩身規範ト名ケ。今書房ノ需メニ應ジテ。梨
棗ニ災スト雖氏。其世ニ流傳スルト否トハ。固ヨリ豫期ス
ベカラサル所ニシテ。彼自助論ト並ビ行ハルハ。釣量ナ
キヲ知ル。然リト雖氏。今世ノ文人學士カ。動モスレバ。間語
ヲ綴リ。閒書ヲ撰ミ。閒錢之ヲ購フ者ヲ待ツニ比スレバ。稍
優サル所無キニ非ルヲ信ズ。刻成ルニ及ビ。卒然筆ニ命ジ
テ。本編撰述ノ旨趣ヲ略記シ。以テ緒言ト爲スト云爾。

編者識

日本立志編卷一目次

節儉ノ部

- 節儉ヲ尚ブハ修齊治國ノ要務タル事ヲ叙ス
- 第一 後三條帝ノ聖斷 二丁
 - 第二 源賴義日置九郎ヲ叱責セシ事 四丁
 - 第三 源賴朝流後守俊兼ヲ戒メシ事 五丁
 - 第四 松下禪尼手ヅカラ亮隔ヲ糊補セシ事 六丁
 - 第五 北條時賴儉素ノ事 八丁
 - 第六 楠正成北條氏ノ亡ブルヲ知ル事 七丁
 - 第七 黒田如水銀百枚ヲ取ラザリシ事 八丁
 - 第八 家康公恭儉ナリシ事 十一丁
 - 第九 井伊直孝衣ヲ乞フタル事 十三丁

第十 紀州侯賴宣、生母莊資ヲ捐テ、七ヲ養フ事

十四丁

第十一 水戸黃門光國ノ金言

十五丁

第十二 岡野左内貨殖ヲ好ミシ事

十七丁

第十三 備前侯光政駕鞋奴ヲ逐ヒシ事

十八丁

第十四 酒井侯忠清補綴セル粗服ヲ服ヒシ事

十九丁

第十五 土井利勝零録ヲ棄サリシ事

二十丁

第十六 備前侯綱政紙ヲ愛ム事

廿二丁

第十七 家忠公ノ乳媼本多正信ヲ面斥セシ事

廿二丁

第十八 青木氏部少輔綱ノ衾褥ヲ謝セシ事

廿四丁

第十九 大河内金兵衛松平信綱ヲ訪フ事

廿四丁

第二十 酒井忠真綿衣ヲ以テ納櫛トセシ事

廿五丁

第廿一 酒井田喜六獨斷ヲ以テ金ヲ貸シタル事

廿六丁

第廿二 駿部道弘其子ノ奢侈ニ習フヲ懼レシ事

廿八丁

第廿三 奥買五平次飢民ヲ賑恤セシ事

三十丁

第廿四 大黒屋善兵衛橋本某ヲ感悟セシメシ事

卅一丁

第廿五 釋月仙貧鄙ノ誚リヲ避ケザリシ事

卅四丁

第廿六 春夫八藏ガ達ナル事

卅六丁

第廿七 狂生田某ヲシテ禍ヲ免カレシメシ事

卅九丁

第廿八 新見屋新右衛門少女ヲ救ヒ禍ヲ免ガレシ事

四十三丁

第廿九 山中某賑恤ヲ以テ老境ヲ慰メタル事

四十七丁

第三十 菊池孝兵衛儉朴ニシテ窮乏ヲ憫ミシ事

同

第卅一 川北梅山儉素自ラ守ル事

四十八丁

第卅二
木村成壽居ヲ移ス事

五十二

日本古志編卷

十河岸 賈 撰述

節儉ヲ尚ブハ修齊治國ノ要務タル事ヲ叙ス
 衣食足テ禮節ヲ知ルハ古人ノ格言ニシテ衣食足ラガ
 レハ仰ヒテ父母ニ事ヘ俯シテ妻子ヲ養フスヲ其資給シ
 難キニ困シム何ノ餘カアリテカ其他ヲ顧ミルヲ得ンヤ
 故ニ志操ヲ挫折シ廉耻ヲ破リ信義ヲ朋友ニ失スルニ至
 ルハ一平生檢束ヒスシテ冗費濫用スル所多キニ由ル
 身ヲ修メ家ヲ齊フルニハ先ツ衣食ノ計ニ窘迫セザル
 用意ヲ為サバ可カラズ故ニ顔回ノ貧猶ホ簞食瓢飲以
 テ飢渴ヲ療スルニ足り曾參ノ其父ヲ養フ必ス酒肉アリ
 ト云フ者何ゾ今世ノ人士中勤モスレバ負債堆積シ督責

四方ニ至ル。猶ホ美酒鮮肴ニ酔飽スルガ如キモノナラ
ンヤ。必ズ家道以テ此ノ如クスルニ足ルアルニ由テナ
リシハ。推知スベシ。孟子ガ富歲ハ子弟賴多ク凶歲ハ子弟
暴多シトイフ。邦諸ニモ貧ハ盜イフガ如ク人ハ其生
活ノ景狀ニ由テ善良トモノリ暴惡トモナル者ナリ。而シ
テ其衣食足リ仰事俯畜ノ資ニ闕乏ヲ訴フルヲ無キヲ
欲セバ各自生業ニ勉カスベキハ勿論ナリト雖氏平生
ニ節儉ヲ守ラズシバ刻苦焦勞シテ得タル所モ奢侈ノ爲
メニ消散シテ踪形ヲ留メザルノミナラズ遂ニ負債山ヲ
爲スニ至ラン。其國ニ於ケルモ亦然リ。故ニ富強ト並ベ稱
シテ國富ハ兵モ亦強ク兵ノ羸弱ナル國ハ必ズ財政ノ
困難ヲ訴ル者ナリ。然レバ則チ家ノ敗興シ國ノ存亡人

ハ所以ハ唯儉素ヲ尚ノミナラサルト云存ルノ道ク云
フト雖氏節儉也者ハ各畲ト混シ易キモノニテ世ト性々
各畲ニ過ギテ子孫ヲ壓抑シ身死シテ幾クモ無ク蕩子ノ
爲ニ耗散セラレ所謂長者三代トイヘル類多ホカラバト
セズ是正理ニ違ヘル所爲ヲ以テ積聚シテ散ズルヲ知
ラズ自ラ怨ミ有トナルヲ省セザルニ由レリ節儉ノ
美德ト思ヒ知ラズ識ラズ各畲ノ禍根ヲ培養スルアラバ
其素望ト反對スル結果ヲ收ムルニ至ルベシ察セスンバ
アル可カラス語ニ曰ク若有周公之才之美使驕且吝其餘
不足言也巳ト聖人既ニ然リ況ヤ其他ヲヤ
第一後三條帝ノ聖斷ヲ稱シテ英主ト爲ス即位ノ初二
後三條院天皇ハ剛健嚴明稱シテ英主ト爲ス即位ノ初二

當リ。風俗華侈ニハ。下吏ハ車ト雖氏之ヲ飾レ。金ヲ以テ。ス。帝其弊ヲ矯メシト欲シ。嘗テ石清水ニ幸ス。都人士女出デ。鹵簿ヲ觀ル。車金飾アレバ。則チ帝爲一輦ヲ駐メ。命ジテ盡ク剔去ヒシム。後チ加茂ニ幸ス。復タ金飾車ヲ見ス。御扇。檣柄。藍紙ヲ用井。青魚頭ヲ多リ。胡椒ヲ塗リ。以テ御膳ニ充ツ。其儉素此ノ如シ。故ニ俗淳樸ニ返リ。皇綱再ビ張り。群下肅然タリ。

櫻所子曰ク。古來創業ノ英主。守成ノ名臣。恭儉ノ徳ヲ修サ。以テ治世安民ノ業ヲ全フセサルハ無シ。是則チ欲ヲ縱ニシ。情ヲ肆ニシ。奢侈華麗ヲ競フハ。衰敝ノ本ニシテ。節儉質素ハ。興隆ノ基ナルヲ以テナリ。故ニ唐ノ太宗ハ。儉約朴素終始渝ラズト詔リシ。魏徵ノ上疏ニモ。第一二節儉慎刑。

ト譯フ。要スルニ名主賢臣ノ見ル所中外同軌トト。輶ナルヲ知ルニ足レリ。恭ク惟ミハニ。我邦開闢以來萬里一系ノ皇統ヲ奉戴シ。敢テ非望ヲ企ル者ナキ。所以ハ。天威ノ赫々タル。他邦ニ比類ナキヲ以テニアラスヤ。而ノ其天威ノ赫々タルハ。則チ皇恩ノ四海ニ浹洽スルモ亦萬邦無比ナルヲ以テナリ。而ノ其威雷建ノ如ク。其恩雨露如ク。政令教化雲行キ雨施シ。君民ノ誼永ク易ハラサル所以ハ。列聖恭儉ヲ事トシタマフニ由ル。之ニ因テ國史記スル所。歷朝ノ聖蹟ハ。每篇漢文ノ紀ヲ讀ムカ如クナリトハ。既ニ山陽賴翁ノ謂フ所ノ如シ。今謹ムデ延久ノ朝ニ於ケル。聖蹟ノミヲ記スルハ。國史既ニ詳カニ歷朝ノ聖蹟ヲ載セ。世人普ネク感仰スル所ナルヲ以テナリ。

我が敬聖至仁ナル 今上天皇ハ。夙トニ復古ノ鴻基ヲ建
テサセタマフ。其俊徳偉烈名クベキ無シ。而シテ太平遊惰
習弊ヲ蕩滌シ。尊大驕奢ノ風俗ヲ矯革シ。夫ノ鐵道ヲ新
築シ。電線ヲ架設シ。若クハ兵艦ヲ製造スルガ若キ。官民ノ
便ニ得。國家ヲ保護スル爲メニハ。官帑ヲ傾ケラル。モ。東
京。宮。城。ハ。災。ス。ル。ヨ。リ。既。ニ。數。年。ヲ。經。ル。モ。猶。ホ。之。ガ。經。營。ヲ。
猶。豫。シ。タ。マ。ハ。更。ニ。勤。儉。ハ。詔。ヲ。下。ダ。シ。供。御。ヲ。減。ゼ。ラ。ル。
ル。ニ。至。ル。モ。ノ。延。喜。天。曆。ノ。聖。代。ト。雖。氏。亦。此。ノ。如。ク。ナ。ル。
ニ。過。ギ。ザ。ル。ベ。シ。誰。カ。感。戴。シ。タ。マ。ツ。ザ。リ。ル。者。ア。ラ。ン。ヤ。
然。レ。バ。則。テ。我。ガ。帝。國。ノ。人。民。タ。ル。モ。ノ。宜。ク。此。勤。儉。ノ。聖
旨ヲ奉體シ。質素ヲ本トシ。產業ニ勉力シ。皇化ノ萬一ヲ
裨補シ奉ラザルベカラズ。然ルニ都鄙一般ニ漸ク奢靡ニ

趨ク。弊ニ染着シ。勅モスレハ。麗衣鮮食。飽暖ヲ取ラン
トスルノ急ナルガ爲メ。已レガ分ヲ遺レ。遂ニ產ヲ破リ
家ヲ喪ナヒ。志操ヲ挫キ。廉耻ヲ顧ルノ迫ナキニ至ル。吁。何
ゾ。聖主親カラ衆庶ニ率先シテ。勤儉ヲ事トヒラル。ノ
獻旨ニ感激スルノ遲鈍ナルヤ。是レ我ガ古来ノ事跡ニ
徵證シ。節儉ヲ尚フハ。修齊治國ノ要務タル所以ヲ叙述ス
ルヲ以テ。斯書ノ首篇ニ措ク所以ナリ。希クハ鄙俚ノ文辭
ト雖。氏。亦。風。化。ノ。萬。一。ヲ。裨。補。ス。ル。所。ア。ラ。ム。コ。ト。

第二 源賴義日置九郎ヲ叱責セシ事

源賴義與州ノ役ニ赴キ。時其軍ニ從ヘル兵。中ニ近江
ノ人日置九郎トイヘル者アリ。甲冑其他軍衆太ダ華美ナ
リシカバ。賴義之ヲ視テ色ヲ變シテ曰ク。憎ムヘキ狀貌カ。

ヲ。汝。必。ズ。身。ヲ。亡。ボ。ス。シ。速。カ。ニ。賣。却。セ。ヨ。ソ。レ。モ。官。軍。
ハ。陣。營。ニ。放。テ。ス。ル。ヲ。勿。レ。敵。營。ニ。賣。與。ス。ベ。シ。ト。九。郎。唯。々。
ト。シ。テ。退。ク。他。日。亦。美。麗。ナル。軍。裝。ヲ。爲。シ。テ。陣。頭。ニ。立。ツ。其。
美。麗。前。ニ。減。ゼ。ズ。賴。義。怒。テ。曰。ク。汝。ガ。猶。ホ。身。ヲ。亡。ボ。ス。ヲ。
曉。ト。ラ。ザ。ル。ヤ。速。カ。ニ。人。ニ。賣。與。セ。ヨ。着。ス。ベ。カ。ラ。ズ。ト。而。ソ。
他。日。黑。縮。甲。ヲ。着。セ。リ。甲。舊。物。ニ。屬。ス。賴。義。之。ヲ。視。テ。喜。ベ。ル。
色。アリ。曰。ク。喜。慶。喜。慶。軍。裝。ヲ。美。麗。ニ。ス。ル。タ。メ。ニ。財。ヲ。費。セ。
バ。家。爲。メ。ニ。貧。シ。ク。勇。士。ヲ。養。フ。ベ。キ。資。力。無。ク。敵。ニ。逢。フ。テ。
亡。ビ。易。キ。モ。ハ。ナ。リ。ト。
櫻。所。子。曰。ク。賴。義。義。家。多。年。遠。和。シ。遂。ニ。興。利。ヲ。平。定。ス。ル。ヨ。
以。來。東。國。ノ。民。源。氏。ヲ。仰。グ。フ。父。母。ノ。如。シ。而。メ。其。裔。孫。賴。
朝。康。竄。ノ。身。ヲ。以。テ。奮。然。手。ニ。噬。シ。テ。起。ツ。東。國。ノ。武。士。響。應。

ニ。遂。諸。平。ヲ。殲。ク。シ。霸。業。ヲ。創。ム。ル。ニ。キ。リ。シ。ト。其。祖。宗。
ノ。恩。威。東。國。人。民。ニ。及。ベ。ル。ノ。素。フル。ヲ。以。テ。非。ズ。ヤ。而。ソ。
其。此。ノ。如。キ。ヲ。致。ス。所。以。ノ。本。ヲ。原。ヌ。ル。一。節。儉。ヲ。事。ト。シ。テ。
衣。服。飲。食。ヲ。菲。フ。シ。勇。力。ノ。士。ヲ。養。フ。タ。メ。ニ。ハ。財。ヲ。愛。マ。サ。
リ。シ。ニ。由。ル。ヤ。必。セ。リ。何。ト。ナ。レ。バ。其。日。置。九。郎。ニ。告。ク。ル。
一。語。ヲ。以。テ。ス。ル。モ。可。ゾ。自。家。ノ。節。儉。ヲ。貴。バ。ザ。ル。ノ。理。マ。ラ。
ム。ヤ。又。何。ゾ。其。子。義。家。ヲ。訓。誨。ス。ル。ニ。節。儉。ヲ。主。ト。シ。勇。士。ヲ。
養。フ。ノ。事。ヲ。以。テ。セ。ザ。ラン。ヤ。

第三 源賴朝筑後守俊兼ヲ戒メシ事

源。右。府。賴。朝。或。時。筑。後。守。俊。兼。ガ。美。麗。ナル。衣。服。ヲ。服。シ。テ。政。
廳。ニ。出。タ。ル。ヲ。視。怒。ル。甚。シ。即。チ。起。テ。俊。兼。ノ。副。ヲ。執。リ。
其。額。ニ。刺。シ。テ。曰。ク。汝。ガ。常。胤。千。葉。介。眞。平。七。肥。二。郎。ニ。視。ハ。

彼等ハ武技ニ長ジタルハニテ、文學ニ短ナリト雖、氏節
儉ヲ守ルガユエニ、家富シ多クノ家、謀ヲ養フ、汝子、俸祿、彼
等ニ比、傳スルヲ得ズ、而シテ華美ヲ好ミ、節儉ヲ知ラザル
ハ、則チ財産ヲ使用スル方法ニ暗キニ由ル、汝子ハ、才アリ
ト雖、氏未ダ是非得失ヲ辨ゼザルヤト、大ニ叱責セラレ
ケリ、爾時滿庵ノ諸士之ヲ聞キ、各恐悚シテ措クトコロヲ
知ラサリシ、
櫻所子曰ク、汝ダハ文才アリト雖、氏未ダ是非得失ヲ辨ゼ
サルヤト、右府ノ一言、以テ其眼光如クナルコト見ルニ
足レリ、若シ源右府ヲシテ、今日經濟家ヲ以テ自ラ居リ、朝
夕ニ財本勞力ヲ談ジ、タニ生殖分配ヲ説キ、而シテ自身ハ
量入制出ノ家政ヲ整理スルヲ知ラズ、偶得ル所アレバ、之

ヲ聲色ニシテ、消耗シ、補ヲ督スル者、門ニ滿ルガ如キヲ
視ヒシ、バ、將タ之ヲ何トカ謂ハハ、

第四 松下禪尼手ツカラ亮隔ヲ糊補セシ事

松下禪尼ハ安達氏、秋田城介景盛ノ女ニシテ、北條時賴ノ
母ナリ、嘗テ時賴ノ爲メニ食ヲ設ク、禪尼ノ兄城介義景來
テ經營ス、尼方ニ手ツカラ紙ヲ裁シテ、亮隔ヲ糊補ハ、義景
曰ク、請フ人ニ命ジテ之ヲ爲シ、
補フハ、之ヲ新タニスルノ勞ヲ省クニ若カ、ト、尼歎ンテ
曰ク、我レ豈ニ之ヲ知ラザラン、凡ソ物小損アル早ク之
ヲ補ハバ、則チ大壞ニ至ラズシト止ム、今此小損改メテ之
ヲ新タニスルハ、奢侈ヲ以テ少年ニ示スナリト、義景赧然
タリ、

櫻所子曰ク、賢達ノ人或ハ母教ノ然ラシムルアル、古來其
例ニ乏シカラズ、即チ孟母ノ事ハ言フヲ待タズ、晉ノ陶侃
宋ノ程伊川、ミナ其人ナリ、時頼ノ儉素ヲ守リ、海内肅トシ
テ、古タリ、政務能ク整フ所以ノモノ、亦禪尼訓誨、然ラシ
ム、所ナリ、

第五 北條時頼儉素ノ事

時頼自一奉ス、儉素、食味ヲ貳ズ、一タ燕居、族父大佛宣
時、來リ、會テ、時既ニ深夜、時頼一鉢、酒ヲ手ニシテ、曰
ク、獨酌卿ト共ニ、ハハ、樂キニ若ク、ズ、願フニ安バ、下物ヲ
得、心所バ、紙燭ヲ照ラシ、被ニ索ム、碟ニ殘醬アルヲ觀取
酒ヲ佐ク、其澹薄此ノ如シ、

櫻所子曰ク、北條時頼、官ハ左近衛將監、過ギス、位從五位

上ニ過ギズト雖、六十餘州兵馬ノ權ヲ握ル身ヲ以テ、其
儉素此ノ如シ、殆ンド今ノ人士ヲシテ、失笑セント欲セシ
ム、是則チ其王室ト、親族朋友トニ對スルノ措置ニ於テハ、
固ヨリ論ズベキ所多シト雖、其民政ニ於テハ、頗ル觀ル
ベキ者アル所以ニ、公平ヲ旨トシ、節儉ヲ事トシ、孜々ト
シテ及バザルガ如クスル、北條氏ニ若クハ無シ、宜ナル哉、
陪臣國命ヲ執ル、九世ノ久シキニ及ベルヲ且ツ夫レ、時宗
ガ鎌倉ノ執權タルニ當リ、文永弘安ノ役アルモ、之ガ爲メ
ニ帑廩ノ空乏ヲ訴ヘシヲ聞カズ、時頼若クハ時宗ヲシテ、
尊大驕奢、徳川氏ノ季世ノ如クナラシメバ、其凶滅何ゾ高
時アルヲ待タンヤ、

第七 楠正成北條氏ノ亡ブルヲ知ル事

北條入道高時ハ宴會アル毎ニ酒九献アレバ下物九種アルヲ要ス楠正成之ヲ聞キ人ニ語テ曰ク北條氏マサニ久シカラズシテ亡ブ可シト。

櫻所子曰ク酒九献下物九種今ヨリシテ之ヲ視レバ尋常平民ト雖氏亦驕奢トスル所ニアラズ況ヤ高時ハ天下ノ執權ニ非ズヤ何ゾ太ダ驕侈ナリトセンヤ然リト雖氏松平下禪尼ノ自ラ亮隔ヲ糊補シ第五條ヲ視ヨ最明寺時頼ノ一鉢ノ酒ヲ酌ムニ殘醬ヲ以テ下物トシ第六條ヲ視ヨ或ハ青砥藤綱ガ十錢ヲ撈ハシメタル等ヨリ視レバ九献九種亦太ダ奢侈ナルヲ以テ楠公ノ炯眼早ク其亡滅センヲ看破セラレシモノナラン昔時質素ノ風亦想フベキナリ今日白面ノ書生乳臭ノ少年行實シテ食スル者ト雖氏

亦間娼門酒肆ニ過ギリ數名ノ校書ヲ聘洋釀十千ノ酒ヲ傾ケ綠竹喧嘈歌舞樓ヲ搖カスノ盛宴ヲ開ク謂ツベシ布衣ノ士ニシテ其驕奢ハ北條入道高時ヲ壓倒スト其志操ヲ挫折シ學業ヲ放棄シ遂ニ父母ノ憂ヲ貽スベキハ楠公其人ノ智ヲ待タズシテ看破スルヲ得ベシ夫レ各自ノ材能ヲ以テ各自ノ嗜好ヲ遂ゲ各自ノ快樂ヲ取ルハ固ヨリ各人ノ自由ニシテ他ノ干渉シ得ベキニ非ズト雖氏亦各自其分ヲ知ラスンバアル可カラズ。

第八 黒田如水銀百枚ヲ取ラサリシ事
豊公征韓ノ事アルニ際シ日根野備中守ヲシテ韓廷ニ使セシム備中守甚々貧困ニシテ其旅裝ヲ辦ズルノ資無シ偶三好新右衛門ヲ紹介トシテ銀百枚ヲ黒田如水ニ借レ

リ。歸朝、後、新右衛門ヲ伴ヒ、如水ヲ訪フ、其借リタル所、銀ヲ償還シ、更ニ銀十枚ヲ添ヘタリ、以テ利子トスル心ナリ。如水出テ、面晤シ、暫クアツテ近臣ヲ呼ビ曰ク、曩キ二人ハ贈クレル鯛アリ、厨人ヲシテ其肉ヲ腊トシ、畜ヘシ、ハヨ、且、今ハ其骨ヲ羹トシテ酒ヲ脩ムヨト、二人之ヲ聞キ、心ニ不滿ヲ抱ケリ、而シテ酒既ニ畢リ、如水サキ、銀ヲ出シテ曰ク、我レ素ヨリ貸スニ意ナシ、唯卿カ給セザル所ヲ補助セシノミト、再三之ヲ強エレ、氏遂ニ取ラズ、二人感謝ニ堪エズシテ歸レリ。

附記

關ヶ原ノ役アル前、大坂守邸ノ士ヨリ、其變ヲ如水ニ報ズ、如水曰ク、平素貯フル所ハ金銀ハ、此ハ如クナル時ハ、用ニ充テンガ爲ナリ、來テ我ニ屬セントスル者アラハ、

幾多ノ士ヲモ養フベシ、封内ニ隱ルハ士アラハ、財ヲ以テ出テ、兵器ヲ執ラシメヨトテ、巨多ノ金銀ヲ散ジテ、四方ノ士ヲ招募セリ

櫻所子曰ク、宜矣哉、黒田如水ノ智勇絶倫ヲ以テ、當時ニ稱セラレシ、其鯛ヲ割キ、其肉ヲ腊トシテ之ヲ畜ヘ、其骨ヲ羹トシテ客ヲ饗スルヲ以テ視レバ、平素節儉ヲ旨トシ、質素ヲ專ラトセシ、想ヒ見ル可シ、然ルニ朋友ニ接スルニ義アリ、變ニ處スルニ斷アリ、其金銀ヲ視ル、泥土瘠ナラズ、真ニ武人ノ氣魄トイフ可シ、抑モ節儉ノ事タル已レガ欲ヲ制シ、冗費濫用ヲ省キ、其爲スベキ事ニ臨ムデハ、毫髮モ吝ム、無キニ在リ、然ルニ今世人士ノ爲ス所ヲ視ルニ、其朋友ニ接スル、離合慶賀等種々ノ事アルニ際セバ、旗亭

畫閣ニ會同シ。華筵銀燭。以テ山海ノ美味ヲ排列シ。綠酒紅
裙。歌呼樓ヲ撼カスノ一大盛宴ヲ開クヲ以テ例トス。一宵
費ス所無慮數十金。人ニ語テ曰ク。我敢テ奢侈ニ耽ルニ非
ズ。交際上已ムヲ得ザルナリト。其交リ淺キモノハ。此ノ如
キ宴會ニ招カル。丁。殆ンド虛日無シ。何ゾ宴會ノ太ダ盛
ナルヤ。而シテ此輩亦其仰事俯畜ノ爲メニ要スル所。或ハ
關乏ヲ訴フルナキニ非ズ。亦何ゾ親戚朋友ヲ助クルノ餘
カアランヤ。故ニ其實ス所百金ニ盈タザルモノヲモ借テ
還サザルヲ憤リ。昨ノ親友。今ノ仇讎トナルアリ。或ハ骨肉
ノ間ニ放テ。狀師ヲ倩フテ。法司ノ裁斷ヲ請フアリ。殆々ト
シテ天下ミナ然ラザル無シ。是他ナシ。假令親朋ノ災厄ニ
遭遇スルコトアリトモ。平素交際ノ爲メニ費ス所過多ナル

ヲ以テ。之ヲ補助スルニ由ナキナリ。特リ之ヲ補助スルニ
由ナキノミナラズ。浮薄ノ世情。人若シ一蹶セバ。之ヲ陷阱
ニ擠倒シ而シテ石ヲ下ダサントス。抑モ此ノ如キヲ致ス
所以ノ者ハ。風俗漸ク奢侈ニ染レ平素ノ交際ニ消費スル
所多ク。隨テ交際ノ外ニモ。亦冗費濫用多キニ至ルヲ以テ
ナリ。夫レ外ニ伸ブル所アラントスレバ。内ニ縮ムル所ナ
カル可カラズ。彼レニ發ナル所アラントスレバ。此ニ急ナ
ル所ナカルベカラザルハ。自然ノ數ナリ。人各其入ル所ニ
限リアリ。笑。ソ内外彼此。共ニ滿溢ナルヲ得ンヤ。黒田如水
ノ智且ソ富アルモ。此ノ如クナル能ハズ故ニ其友ニ接ス
ルニ義ヲ以テシ。變ニ處スルニ財ヲ愛マザル爲ニハ。平素
客ヲ饗スルニ。鯛ノ骨ヲ以テスルノ儉素ヲ守ラザルヲ得

ズ、況ヤ其智其富。如水其人ニ若カザルモノヤ。然レハ則
キ。貴族豪估ト雖モ、猶ホ儉素ヲ守ラズンバ、其家ヲ敗ル。何
況ヤ寒士貧生。猶ホ交際ノ爲メニハ、貲濫用ヲ吝マザル
ヲ以テ、名譽ノ如ク思倣ス者アルニ於テヤ。是其友ニ接
スルニ、信義ヲ失シ易ク、疾病事故アルニ逢ヘバ、措ク所ヲ
失シ、尾ヲ揺カシ耳ヲ帖レテ、人ノ憐ミヲ乞ヒ、廉耻地ヲ掃
ヒ、浮薄俗ヲ成シ、其嗜欲ノ爲メニハ、金銀ヲ視ル、泥土ノ
如クシ、信義ノ爲メニハ、之ヲ視ル、寶玉ノ如クスルニ至
ル所以ナリ。宋ノ李沆ハ、一代ノ賢相タリ、人ニ語テ曰ク、魯
論ニ所謂、用ヲ節シテ人ヲ愛ス、一語ハ、我レ身ヲ終フル
マデ行フモ、盡ス、能ハズト、嗚呼、如水モ、亦善ク用ヲ節シ
テ人ヲ愛スト、謂フベキナリ。今世ノ人士、以テ如何ト爲ス。

第八 家康公恭儉ノリシ事

家康公ノ駿府ニ在ル日、近臣某、美麗ナル袴ヲ着ケテ、公ノ
前ニ出タリ、公其名ヲ問フ、曰ク、恭字ト名クルモノナリト。
公艷然ト色ヲ變ジテ曰ク、汝、我レ、ダ、ニ、ヒ、未、ダ、知、ラ、サル。
美麗ハ、服ヲ着スルハ、何事ゾヤ。天下久シク亂レ、萬民塗炭
ニ苦ミシモ、近來漸ク平和ニ趣ク、然ルニ早クモ、驕侈ハ、心
ヲ生ズルハ、是レ亂ノ端ナリ。汝、ダ、ガ、如、キ、奢侈ヲ好ム者ハ、
我、ガ、左、右、ニ、居、ク、可、カ、ラ、スト、痛ク叱責セラレタリ。
英勝院女房ノ名、或時公ニ上言シテ曰ク、公常ニ、澣濯ハ、泊、
衣ヲ服セラルハ、ト雖モ、之ヲ賤卑ヲシテ澣ハシムルモ、憚
リアリ、侍女ヲシテ澣ハシムレバ、柔荑ノ手指血流ルハ、ニ
至リ、衣難色アリ、澣衣ヲ服セラレサルモ可ナラスヤト。

公之ヲ聞テ曰ク、婦女ノ理ヲ解セザル、之ヲ言フモ益ナカ
ル可シト雖トモ、諦カニ我が言ヲ聽ケ、卿等ハ駿府ハ倉庫
ハ、ハ視テモ其多キニ駭ク可シ、京都大坂其他地方ニ
於ケルモ亦倉庫アリ、布帛ハ山積ス、故ニ日ニ百匹ヲ服
タリトモ其足ラサルヲ憂ヘス、然リト雖氏子孫萬世ノ爲
メ天下衆庶ノ爲メヲ思フガ故ニ常ニ薄衣ヲ服ス、何トナ
レバ天道ハ奢侈ヲ惡ムモノナレバナリト。

公或時一室ニ入ラントシテ其袴ヲ亮隔ノ鈎匙ニ掛ケタ
リ、公手ヅカラ之ヲ外ツシ氣ヲ噓シテ蹴テ直サレタレバ
近臣輩見テ微笑スル者アリ、而シテ後チ公近臣ニ謂テ曰
ク、我レ袴ヲ愛ハニ非ズ、此袴ハ貧窶ナル婦女ノ辛苦ニ成
リシモノナリ、人トシテ其需用スル所ハ品物ハ如何シテ

成リシヤヲ知ラザレバ猶小禽獸ニ均シ、故ニ恆ネニ四思
ヲ思ハズンバ世ヲ治ムルコトヲ得ベカラズト。

公豐臣關白ト和スルノ年、濱松城ニ在リ、一日寒風凜烈タ
リ、即チ左右ニ命ジテ外套ヲ致サシム、侍醫近藤縫殿一繡
被ヲ進ム、即チ豐關白ノ贈ル所紅梅鶴章光彩目ヲ奪フ公
輦感シテ曰ク、烏ゾ此華麗ナル者ヲ用ヤ、吾レ曾テ豐
家ニ已ムヲ得ズシテ一タビ之ヲ着ス、今豈ニ再ビ着シ以
テ我家朴素ノ風ヲ破ル可ケンヤト、更ニ他ノ短挂ヲ呼デ
之ヲ服ス。

櫻所子曰ク、易ニ曰ク、節スルニ制度ヲ以テス、財ヲ傷ラズ、
民ヲ害セズト、禮記ニ曰ク、入ルヲ量テ出ルヲ爲スト、經濟
ノ學タル、深邃廣高ナリト雖氏其要此ニ外ナラズ、而シテ

世人モ亦此理ヲ知ラザル者ナシ。而カレ氏之ヲ實際ニ行
フハ太ダ難シ。何トナレハ、衣服飲食宮室ヨリ、玩好ノ器具
ニ至ルマデ、人欲ハ限り無クシテ、財用ハ限りアリ。限りア
ル財ヲ以テ、限り無キノ用ニ供スレバ、則チ財竭キ民窮ス
ルニ至ル。古來明君賢相ハ、皆ナ能ク已レニ克テ、儉素ヲ行
フ。即チ漢ノ文帝、百金ノ費ヲ愛ムデ、露臺ヲ作ラズ、上書ノ
囊ヲ聚メテ、帷幕ヲ製シ、幸マル所ノ夫人、衣地ヲ曳カザリ
シガ、如キ。明ノ太祖、散騎舍人ノ衣服鮮麗ナルヲ見テ、其價
ヲ問フ、五百貫文ト答フ。帝大ニ驚キ、五百貫ハ農夫數口ノ
家一歲ノ資ナリ、是ヲ一衣ニ費ヤス、驕奢太シト、痛ク譴責
セテ、レシガ如キ。傳ヘテ以テ歷史ノ美談トシ、人口ニ膾炙
ス。善哉、德川氏ノ起ル、儉素ヲ以テ守成ノ主義トシ、豐家

ノ豪奢ヲ學バズ、子孫ノ爲メ家業ノ爲メ計畫スル所、深ク
且ツ遠キハ、漢文明祖ニ耻ヂズ、是則チ三百年間ノ太平ヲ
致セシ所以ナリ、而シテ其衰運ニ趣クヤ、奢侈ヲ事トシ、帑
廩空乏シテ、聚斂益甚シク、賄賂公行シ、紀綱紊亂シ、國力周
弊シテ、亦如何トモス可カラザルニ及ビリ、節儉ト奢侈ト
ノ治亂興亡ニ關スルハ、此ノ如ク、赫トシテ火ヲ視ルヨリ
モ明カナリ。天下ノ大ヲ保有スル尚ホ且ツ然リ、況ヤ士族
人ノ小財産ヲ所有スルモノヤ。苟モ儉素ヲ守ルヲ爲
サズ、奢侈淫靡ヲ事トスルアラバ、志操之カ爲ニ折ケ、信義
之ニ由テ泯ビ、亡身敗家立ドコロニ至ラン、何ゾ其他ヲ顧
ルニ暇アリムヤ。

井伊直孝大坂ノ陣營ニ在リ。時寒冬ニ屬ス。一日二人ノ士ヲ遣シテ斥候トス。歸路雨ニ逢ヒ。滿身濕濡セリ。直孝其衣ニ領ヲ脱シテ。二人ニ與フ。而シテ之ニ換フル。衣無シ人ヲシテ安藤直次ニ襖子ヲ乞ハシメテ曰ク。僕ガ附身ハ故衣ハ雨ニ逢フテ。歸リタル家士ニ與ヘ換ヘ服ス。キ衣無シト。而シテ直次ノ贈レル衣ヲ穿キ。革袴ヲ着ケテ。要將軍前ニ出テタリ。

附記 井伊直孝ノ封セラレタル彦根ハ。畿甸ニ近接シ。琵琶湖舟楫ノ便アリ。屢京洛ニ來往スルヲ得ルヲ以テ。元和偃武ノ後。子ハ其藩士ノ風漸ク奢侈ニ赴キ。美麗ナル衣服ヲ好ム。直孝其風俗ヲ矯正スベキ事ヲ思惟シ。江戸ヨリ歸程ニ上ボル前。從者ノ數ヲ計リ。綿衣ヲ裁セシメ。而シテ彦根

ニ達スル。日早晨旅館ニ於テ。從者ニ之ヲ分チ服セシメタリ。彦根ノ士出テ。候駕ヲ迎フルモノ。各被服シテ城外ニ鵜行鷺列ス。前發ノ士盡ク綿衣ナルヲ視テ。少ク恠ム也。アリシニ。直孝ハ轎窓ヲ開キシヲ望視ス。ハ頗ル垢臢ナル綿衣ヲ穿チタリ。諸士漸汗背ヲ浹ホシ。其服シタル所ハ美服ヲ裂カント欲スル。人思ヒアリ。爾來華美ヲ好ム。風漸ク地ヲ拂フニ至レリト。

櫻所子曰ク。今日ノ形狀ヲ以テ視レバ。假令昔時質素風ヲ成セシ。雖氏三十萬石ノ封土ヲ有シ。徳川氏柱石ノ臣タル井伊直孝其人ニシテ。衣ノ脱換ス。ハキモノ無カリ。イフハ。信シ難キが如クナリト雖氏。當時儉素。此如クナルヲ想ヒ見ル可シ。物移リ星換リ。三百回ノ春秋ヲ經過

シタル今日ニ於テハ、都會城邑至ル所羅綺ヲ纏ヒ、錦繡ヲ
翻シ、房室ヲ窺ヘバ、檀紋花ノ如ク、街衢ヲ望ミ、華影
似タリ、今古變遷ノ情態、仙凡境ヲ異ニスルカ如シ、是固
リ昭代ノ恩波ナリト雖、氏亦華美ヲ專ラトシ、冗費濫用ヲ
節減シ、以テ有益ナル事業ニ努力ヒズンバ、愛國ノ民ニ非
レナリ。

第十 紀列侯賴宣ノ生母莊資ヲ指テ、士ヲ養フ事

紀列侯賴宣ノ生母ヲ阿萬ノ方ト曰フ、嘗テ人ニ語テ
曰ク、諸公子ヲ愛シ、テ之ニ献スルニ、名劍寶器ヲ以テスル
ハ、尋常ノ事ハシ、安ハ以爲ク、國家ニ藩屏タル主將ノ寶ト
シ者ハ、名劍寶器ニアラスシテ、勇武ノ士ヲ得ルニ在リ、
善シ。日事ヲ以テ、際セバ、勇士ヲ舍テ、將。何ヲカ恃マ

ニマ、間ク、塙團右衛門ハ、舊土ノ爲メ、鋼ヒラレ、蹉跌坎軋
ナリト。妾此人ヲ得テ、以テ公子ヲ擁護セシト欲ス、顧フニ
名劍寶器ニ勝ル者、于ゾヤ、乃チ毎歲受クル所ノ莊資五百
金ヨリ、二百金ヲ除キ、之ヲ團右衛門ニ贈致シ、以テ他日ノ
用ヲ待ツト。

櫻所子曰ク、裙釵衣帶ヨリ、以テ粧奩鏡函ニ至ルマデ、其華
美鮮麗ヲ欲シテ、費用ヲ愛シマス、翻テ親戚朋友ニ贈遺ス
ルニ至テハ、頗ル怪各ニシテ、眉ヲ蹙メ、心ヲ忤クルニ至ル
ハ、婦女ノ常態ナリ、縱使、隸索以來年ヲ閱ガルノ昔日ニ於
ケルモ、富メバ則チ必ズ驕ルハ、英雄豪傑ト雖、氏免カレザ
ル所ナリ、然ルヲ況マ、婦女ノ身ヲ以テ、其脂粉ノ資ヲ捐テ
テ、國家ノ爲ニ勇士ヲ養フガ如キ、丁テヤ、紀侯賴宣、天資英

邁勇武ヲ以テ世ニ稱セラル。蓋シ母教ノ薰陶スル所ニ由ルナルベシ。嗚呼侯ノ生母亦絶世ノ賢婦ナル哉。

第十一 水戸黄門光國ノ金言

黄門常ニ其臣屬ニ訓誨シテ曰ク。天下國家ヨリ以テ度人ニ至ルマデ。節儉ヲ以テ最上ノ德行トス。今ヤ治平日久クシテ。上下恬熙。日ニ奢侈ニ赴キ。衣服飲食宮室器具ニ至ルマデ。競テ華美ヲ貴ブ。故ヲ以テ一國ニ一家ニ其費用殆シド。支ヘ難カラントス。是レ在上ノ君子。富貴ニ生長シ。榮華ニ慣習シテ。心ヲ斯ニ用ナラザルヨリ。其風俗自カラ下モニ及ヘルナリ。殊ニ諺訣ノ爲メニスル。進献ニ美麗ヲ極メ。厚遺其執事近臣ノ輩ニ及ビ。以テ弊ノ塵ヲ拂フ。此風一タビ行ハル。ヨリ。天下窮乏ノ基トハナレリ。況ヤ頻リニ

土木ヲ起ス。一ヲ好ム世ニシテ。諸國ニ其費ヲ課セラル。ガ故ニ國主ハ之ガ爲メニ萬金ヲ捐ツ。國主歳用給セザレバ。自カラ士農工商ヲ虐ケテ。其闕ヲ補ハザルヲ得ズシテ。遂ニ一國ノ窮乏トナレリ。治平久シフシテ此ノ如クナルニ至ルハ。古來皆然リ。縱使舜禹ノ德ヲ慕フニ及バザルモ。止ムヲ無クハ漢文ノ節儉ヲ專ラトセラレシヲ以テ家給シ人足ルニ至リシヲ模範トセラレン。一ヲ欲スルナリ。士庶人モ各自ノ分ニ從テ。節儉ヲ守ラバ。則チ親戚朋友ヲ助ケ。其子孫ヲ教育スル。資ニ乏シカラズ。然レ氏節儉ト。吝嗇トハ混ジ易シ。能ク此分界ヲ辨知スベシ。吝嗇ナルモハハ。上ニシテ之レヲ爲セバ。則チ衆庶服セズ。下モニシテ之ヲ爲セバ。則チ親戚朋友相協ナハズ。理ニ背キ。義ヲ缺

カトハハナル可シ

櫻所子曰久此水戸黄門ノ訓誨ハ年山紀聞ニ出タル所ニシテ別ニ巧妙ノ工夫ヲ説カレシ者ニ非ズト雖モ殊ニ斯ニ掲グルモノ識者ノ見ル所千古同揆ニシテ亦移動スベカラザルヲ示スノミ夫レスチユワルトミルハ歐洲ニ於テ經濟學士ノ翹楚トスル所ナリ其經濟論ヲ著セルヤ中ニ於テ馬鈴薯ヲ樹藝スルヲ以テ凶荒ヲ豫防スルノ最上策タルヲ説ケリ賢人哲士ノ言ハ平夷ニシテ恠奇人ヲ驚カス者ナク真理ノ動カス可ラザル者其中ニ存ス今世ノ人士動モスレバ興産殖業ノ策ヲ談ジ節儉ノ要務タルヲ知ラズ害ヲ攘フコトヲ外ニシ而シテ利ヲ興スコトヲ務メバ國家ノ富強立ドコロニ致スベシト爲ス殊ニ知ラズ利ヲ

興スハ害ヲ除クニ若カサルコトヲ夫レ財ハ天雨鬼輸ニ非ズ天地間復タ何ゾ儉素ヲ守ラズシテ富ヲ致スノ術アラシヤ世ノ富國ノ策ヲ講スル人請フ三思セヨ

第十二 岡野左内貨殖ヲ好ミシ事

岡野左内ハ上杉氏ノ臣ナリ景勝ニ仕フ其封ヲ米澤ニ移スニ及ビ去テ蒲生秀行ニ仕フ食祿一萬石ナリシト云フ左内恆ネニ貨殖ニ志シ家巨萬富ヲ致ス而シテ大小判及ヒ他ノ碎粒等金銀ヲ一室内ニ排列シ以テ娛樂ト爲ク毎月必ズ二三度ニ及フ人聞テ之ヲ賤シム偶隣間相聞フ者アリ人アリ來テ報ス左内怡モ室内ニ在リ黃白ヲ解當スルニ暇マ無ク直チニ往テ之ヲ和解シ翌日ニ至テ返ル黃白猶ホ室中ニ狼藉タリ衆始メテ其大度ナルニ服ス是

ヨリ先キ、關ヶ原、役アル。左内永樂錢一萬貫ヲ景勝ニ獻
ジテ曰ク、敢テ軍需ヲ資クルニハ非ズ、聊カ以テ將士ノ勞
ニ酬ヘント。馬奴アリ、黄金一枝ヲ珍藏ス。左内大ニ之ヲ奇
トシテ曰ク、人ノ心ヲ用ユル當サニ此ノ如クナルベシト。
之ヲ賞スルニ十金ヲ以テス。仕ヘテ忠郷ノ時ニ至ル、其病
革カナルヤ、金三萬兩ヲ忠郷ニ獻ジ、三十金ヲ以テ其弟思
知ニ獻ジ曰ク、以テ平素ノ恩ニ報ズト。亦五金十金ヨリ以
テ百金ニ至ルマデ、諸友ニ遺贈スル、各等差アリ。而シテ舊
券ハ其櫃トトモニ之ヲ燒ク。

櫻所子曰ク、世ノ貨殖ヲ事トシ、素封ノ富ヲ致ス者ヲ視ル
ニ、怪吝貪汚至ラザル所無キ者多シ。殊ニ知ラス、貨財運動
ノ妙機神算ハ、積ムテ能ク散ジ、國ヲ利シ以テ人ニ及ブニ

在ハリ。左内ノ如キハ、頗ル貨財運用ノ妙ヲ會得スル者

ト謂フベキナリ。其券ヲ燒クカ如キニ至テハ、左内ノ胸襟

點塵着カズ、清風洒々如ナリ。世ノ萬金ヲ積ムテ、而シテ券

ヲ斗鐘ニ割ク能ハリル者、以テ如何ト謂ハズ。

第十三 備前侯光政等鞋奴ヲ逐ヒシ事

備前侯光政、或時城壕ニ泛ベル水禽ヲ彈射セシト、家臣某

ノ屋背ニ出デ、之ヲ窺フ。穿鞋奴門道ノ外ニ於テ其副刀

ヲ脱シ内ニ入ル。光政歸ラントスルトキ、之ヲ見テ曰ク、何

人ノ副刀ナルヤト。傍ニ在ル者答ヘテ曰ク、公ノ奴ノ帶ブ

ル所ナリト。光政色ヲ變シテ曰ク、絲ヲ以テ、靴ヲ繫ス。分ニ

應ゼザルハ、革奢ヲ好ム者ナリト。直チニ其奴ヲ逐フ。此ヲ

傳ヘ聞ク所ノ斯興僕隸等、渾テ其刀鈍ヲ繫スルニ革ヲ以

ニマルニ至レリ。
櫻所予曰ク、備前侯ノ英明ナル、儒術ヲ尊ビ、藩士ヲ愛養シ、
封内ノ人民ニナ其恩澤ニ浴セルガ如キハ、世人ノ遍不ク
知ル所ナリ、而シテ玉帛禮幣ヲ厚フシテ名儒ヲ招キ、
鐘
祿ヲ愛マズシテ名士ヲ養ヒ、民ノ疾苦ヲ問ヒ赤子ヲ安
ンスルガ如クセシモ、未ダ嘗テ帑廩ノ闕乏ヲ訴フルニ至
ラザリシ者ハ、他無シ、公ガ自ラ奉ズル太々薄クシテ、士風
ノ太平ニ慣レ、奢侈ニ趨ルノ源ヲ遏止セント、深ク意ヲ用
弁ラレシニ由ル、ハ世人或ハ之ヲ知ラザル者アリ、聞ク
備前新太郎少將以來、江戸ノ市民ハ衣服其他ノ質素ナル
士人コ視レバ、一日シテ岡山ノ藩士ナルコトヲ識別シ、
備前風トイフ、享和ノ末ニ至テハ、其餘影殘聲ノ漸ク泯

滅ヒシニヤ、江戸ノ市民モ亦容易ニ識別シ能ハザルニ至
レリト、光政ノ質素ヲ以テ一藩ノ風尚ヲ成セル者ハ、則チ
謚シテ芳烈ト曰フ所以ニシテ、民其澤ヲ被ムルノ本ナル

第十 酒井侯忠清補綴セル相服ヲ服セシ事

酒井忠清ハ幕府ノ執政トシテ威權アリシ人ナリ、或時殿
中ニテ汗出ケレバ、^{シタギ}相服ヲ脱シテ欄頭ニ曝ラセシヲ見ル
ニ、所々補綴セルモノナリシト。
櫻所子曰ク、應仁以降、群雄割據、四海鼎沸シ、民其生ヲ聊ン
セザルモ、二百年、徳川氏衰亂ノ餘リヲ兼テ、一意勤儉、
以テ斯氓ヲシテ蘇息セシメントスルニ在リ、且ツ戰亂日
久ク、雨ニ沐シ風ニ梳ルノ餘習、未ダ全ク脱セズ、故ヲ以テ

麗衣鮮食ハ、武人ノ風尚ニ於テ耻トスル者ノ如シ。然リト雖、酒井侯ノ如キハ、身有土ノ諸侯トシテ、天下ノ政柄ヲ執ル。國ノ大臣タリ。然ルモ猶ホ修補セル相服ヲ服シ、以テ政事堂ニ上ホル。況ヤ其他ヲヤ。古人曰ク、治ヲ致ス難キニ非ズ、治ヲ保ツヲ難シト爲スト。何トナレバ、天下ノ未ダ治ラザル。上ノ焦心苦思スル所、下ノ進計獻議スル所、治安ヲ是レ圖カルモノニ非ルハ無シ。天下既ニ治安ヲ致ス、亦憂フベキモノ無ケレバ、則チ上下逸樂ニ相從ヒ、間暇ニ相忘ル。故ニ天下治リ、而シテ畏ル可キ者始メテ生ジ、天下安ク、而シテ憂フ可キ者始メテ萌ス。然ルニ慶元僞武ヨリ、明曆萬治ニ至ルコロマデハ、尚ホ治安ヲ保ツニ孜々シテ、逸樂間暇、以テ屍ヲ馬革ニ裹ム。昔日ノ慘苦ヲ忘ル、ニ至ラズ。

當時ノ士風想見ハベシ。宜ナルカ大昇平ノ基ヲシテ、益鞏固ナラシメ、民其澤ヲ被ムル。三百年ノ久シキニ及ビシヨ

第十五

上井利勝零絲ヲ棄テザリシ事

大炊頭上井利勝。一日漢絲、零餘一尺ハガリナルヲ以テ、近臣大野仁兵衛ニ付シテ曰ク、汝デ謹ムデ之ヲ藏メヨト。衆其鄙吝ナルヲ笑フ者アリ。利勝置テ問ハス。三年ヲ經タリ。偶、利勝腰刀、繚解ケタリ。仁兵衛ヲシテ、往キニ付スル所、漢絲ヲ持チ來ラシム。仁兵衛直チニ之ヲ腰袋ニ取り、以テ呈ス。利勝手ツカラ其絲ヲ以テ刀繚ヲ約シ、欣然トシテ微笑シテ曰ク、無用ハ用、今ニシテ驗アリト。遂ニ其釋寺田某ヲ召シテ曰ク、孤甚ダ仁兵衛ノ謹愼ニシテ、主命ニ重シズルヲ嘉ミス。ソレ祿三百石ヲ増シ與ヘヨ。抑モ漢絲ハ

物タル彼國ニ在テ桑婦蠶繅辛苦ハ手ニ成リ展轉運輸シ
歟タル碧水ヲ航シ以テ我地ニ入ル其人ハ勞カヲ經ル幾
干ゾヤ則チ尺寸ノ零餘ト雖氏徒ニ之ヲ壘芥ニ委スル者
ハ是レ天物ヲ棄ルナリ孤ガ恆ニ畏懼スル所ナリ而シテ
仁兵衛之ヲ守テ失ハザルハ之ヲ天ニ事スル者ト謂フ
モ可ナリト輒チ戲レテ曰ク一尺ノ絲三百石ノ祿ヲ博ス
獲ル所亦多シ鄙吝ヲ笑フモノハ之ヲ如何ト視ルヤト
櫻所子曰ク土井利勝ノ如キ節儉ノ道ヲ知ル人ト謂フベ
キナリ世人多クハ十萬金ノ容易ニ得可カラザルヲ知テ
而シテ錢釐ノ重シズ可キヲ知ラズ殊ニ知ラス錢釐ヲ積
ミ以テ巨萬ノ額ニ至ルベキヲ然ルニ零絲斷綿モ猶ホ
之ヲ重シジテ而シテ其上ヲ貴スルニ三百石ヲ以テシテ

愛シマズ利勝ノ如キハ節儉ノ理ニ達セル人ト謂ノ可キ
ナリ今世ノ巨萬ノ富ハ企及ブベカラズトシテ錢釐ヲ泥
土視シ銅鉄ヲ塵芥視シ自ラ一金ヲ費スヲ愛マザルモ人
ニ一金ヲ與フルヲ欲セザル者豈利勝ノ風ヲ聞テ興起セ
ザルベケンヤ

第十六 備前侯綱政紙ヲ愛ム事

備侯光政ノ嗣子綱政一日美濃紙ニ書シ字ヲ誤リ更ニ之
ヲ寫ス前ノ紙ヲ以テ近臣某ニ付ス某受ケテ之ヲ爛ミ棄
テ爛紙トス綱政責メテ曰ク汝ダ何ゾ妄リニ紙ヲ棄ル
トヲ爲ル復タ必ズ適應ノ用ニ供ス可キナリ片紙尺楮ト
雖氏多クハ勞カヲ費シテ成レル者ナリ我敢テ紙ヲ吝ム
ニ非ス其勞カヲ愛ムナリト

附記

水戸黄門光國。深ク紙ヲ愛シ。書翰ノ封套ハ長短ヲ問ハズ。之ヲ接ギテ詩歌ノ草稿ヲ起スノ用一俱ニ。坐上ニ水ヲ滴ラス等ノ事アレバ。之ヲ拭フニ紙ヲ用ナス。必ス布片ヲ以テス。恒ニ女監等ヲ戒メ。妄リニ紙ヲ費ス可カラズトイフ。然レハ猶ホ紙ヲ費ス可多シ。一日女輩ニ語テ曰ク。紙ハ觀ヲ取ル可キ者ナリ。往テ觀ヨト。即チ脂粉一隊。松草村ニ在ル紙場ニ赴ク。川上ニ壩ヲ架ス。坐スル所ニハ簀上ニ涼簾一片ヲ籍ク。此日北風暴烈寒威膚ニ迫ル。紙ヲ秋マル男女ハ。ミナ赤脚ニシテ水中ニ俯仰ス。女衆大ニ驚キ。且ツ其寒ニ耐ヘズ。歸テ後チ秋紙者。艱苦ヲ説ク。黄門曰ク。紙ヲ製マルハ業此ノ如クソレ易スカザルナリ。故ニ妄リニ費スベキニアラザルナリト。爾後後房ノ内。

亦多ク紙ヲ費ス者無キニ至レリ。櫻所子曰ク。良齋翁嘗テ南史ニ。沉麟士カ火ニ遭テ書數千卷ヲ燒キ。年六十ヲ過ギ。耳目聰明。反故ヲ以テ秋寫シ。復々一三千卷ヲ爲ストイヒ。三輪執齋ガ。養子ノ説ヲ記セシ文ノ。又故ニ書セリ云々ノ事ヲ引キ。和漢トモニ製造未ダ盛ナフズ。諸物不足ナルヲ以テ。之ヲ愛重シ。人モ亦儉素ヲ守レリ。丁ヲ證シ。又翁ガ所藏ノ淮海聲音ト題セル。嘉曆四年ニ寫シタル本ハ。半紙ノ如キ紙ニテ。其半面ニ一行廿八字十四行トシテ。空紙無キヲ見バ。古ハ紙ノ不足ニシテ。且ツ儉素ナリシト想ヒ見ル可シトイヘリ。彼庭訓往來。白紙。端底ハ間。反古ヲ用ユル所ナリトイフモ。亦妄ナラザルヲ知ル。備前侯ニ。水戸侯ニ。身大藩ノ主トシテ。猶ホ隻紙ヲモ

妄リニ費サバリシヲ視バ。假令其製造ノ器械猶ホ乏クシ
テ。人カヲ勞スルノ多キニ由ルト雖モ。抑モ亦儉素ヲ尚フ
ノ一斑ヲ窺フニ堪タリ。今世製造ノ業。未ダ大ニ振興セズ。
シテ。紙ヲ費ス。多キ。或ハ昔日二十倍セン。故ニ供給ハ
常ニ需用ヲ充タスニ足ラス。紙モ亦外輸ヲ仰グ。其價格亦
隨テ翔貴セリ。特リ紙ノミナラス。布絮絹帛皆然ラザルハ
無シ。故ニ興産起業ハ目今我邦ノ急務タル。世人ノ論究シ
テ措カザル所ナリ。其人々儉素ヲ守リ。妄消浪費セサルノ
一事モ。亦今日ノ最大要務ト謂フ可キナリ。

第十 家忠公ノ乳媼本多正信ヲ面斥セシ事

將軍家忠公ノ乳媼某氏。其名ヲ逸ス。蓋シ參河ノ人ナリ。人
呼シテ大婆公ト曰フ。媼賢ニシテ丈夫ノ風アリ。公乳育ノ

故ヲ以テ。之ヲ視ル。阿母ノ如クセリトイフ。媼他ノ嗜好
無シ。但。毎月二三。次。盡ク。斷。興。僕。隸。ヲ。厨。下。ニ。致。シ。テ。飯。ヲ。大
盤ニ崇リ。一々之ヲ梳ニ裝シテ。身親カラ饋シ以テ之ヲ供
ス。奴輩感戴シ。其故饒ヲ極メテ止ム。此ヲ以テ平生ノ娛樂
ト爲ス。一日本多佐渡守正信來リ候フ。其親饋スルヲ見テ
驚テ曰ク。大婆公。侍婢使令足ラザルニ非ズ。何ゾ苦ムテ自
ラ饋クル。子ヲ之レ爲サンヤ。媼憮然トシテ襟ヲ整ヘテ曰
ク。比來人子ヲ謂テ驕奢稍甚シト爲ス。妾之ヲ聞キ敢テ信
セザリ。今乃知今ニシテ其誣妄ナラザルヲ知ル。子モ亦彌
ハ郎タリシ時ヲ忘レタルヤ。妾昔シ微ナル時。飯ノ恩ヲ
人ニ施サント欲シテ且ツ得ヘカラス。今ヤ此大饗ヲ設ケ。
奴輩數十人ヲシテ快然飽食セシムル者ハ。悉ク皆ナ邦家

恩ナリ。而シテ獨リ微賤ノ時ヲ忘レテ可ナランヤ。予ハ天下ノ大老タリ。是ヲ之レ問ハズシテ徒勞ヲ以テ擬セラ。吾是ヲ以テ子ガ驕奢ニシテ自ラ省ル能ハザルヲ知ル。其政務ニ放ケルハ如何モ亦推知スベシト。正信赧然トシテ言無クシテ去ル。

櫻所子曰ク。二代將軍ノ謹厚ナル。天稟ト曰フト雖氏亦外良師傳ヲ得。以テ之ヲ輔翼シ。内チ乳媼ノ賢アリ。冥助暗養スル所アルニ由ルカ。今世微賤ヨリ出デ。摺紳貴族ノ乳母タリ。妻妾タル者蓋シ少ナカラズ。而シテ富貴ニシテ微賤ノ時ヲ忘レズ。馬輿僕隸ニ親饋スルヲ娛樂トスル。大婆公ノ如キ者アルカ。多クハ驕傲ニシテ。賓客アリト雖トモ出テ。接ヒス。梳粧ノ餘暇ニハ。則チ三絃ヲ弄シ。月琴ヲ彈

シ。巾箱本ヲ翻シ。以テ日月ヲ消シ。訪花觀劇ヲ以テ娛樂トシ。其甚キハ粧費若干ヲ捐テ。梨園弟子ニ纏頭シテハ。二誇ルニ至ル。知ラズ。其等ノ婦女人。乳養生育スル所。果シテ冥助暗養ノ効アルヤ否ヤ。

第十八 青木民部少輔緇ノ衾褥ヲ謝セシ事

青木民部少輔囚ハレ。板倉伊賀守厚ク之ヲ遇シ。緇ヲ以テ裁シタル衾褥ヲ供セリ。民部少輔衾ハ衿ヲ執リ。其頭ニ加。エテ謝シ。テ曰ク。我未ダ此ノ如キ卧被ニ纏ハレテ夢ヲ結ビタルハ無シ。敢テ辭セハト。是ニ於テ。更ニ木綿ノ衾褥ヲ供ス。當時ノ大名ハ概ネ此ノ如キ風俗ナリシトイフ。櫻所子曰ク。惟ルニ應仁以降。元和ニ至ルマデ。四海騷然。シテ。世ノ武門武士タル者。平素尸ヲ馬革ニ裹。ハ。日ヲハ

丁チ忘レズ。人民、衰弊亦極ル。故ニ萬鍾ノ禄ヲ食ム者ト雖也。其衣服飲食ノ質素ナル。慣習俗ヲ爲セシ者ナルベシ。然リト雖也。今世、家萬鍾ノ禄アルニ非ス。亦素封ノ陶猗ニ比レベキモノニ非スシテ、其卧榻衾蓐ノ美錦衾爛タリトモ謂フベキモノニ纏ハレテ、高眠スル者アリ。或ハ恐ル新輩力。他日綿衾ヲモ、其衿ヲ執テ頭ニ加フルニ至ランコトヲ。

第十九 大河内金兵衛松平信綱ヲ訪フ事

大河内金兵衛、一日閑老伊豆守信綱ヲ訪フ。信綱出デ、接ス。時恰カモ嚴寒、風刀剪ルカ如ク戸隙ヨリ來ル。信綱曰ク、爺カ老健ヲ以テスルモ、寒ヲ覺フルハ壯年ノ者ニ勝サルベシ。仰子、戴イテ談話セラル、亦何ゾ妨ゲント。金兵衛

其言ヲ謝シ、故キ木綿ハ巾ヲ懷ヨリ出シテ、之ヲ被ハル。信綱左右ニ命ジ、種々ノ綿紗ヲ以テ裁セル巾。凡ソ十有餘箇ヲ齎チ來ラシメ、意ニ適フモノアラバ、之ヲ取レト謂ス。金兵衛曰ク、僕ガ巾ノ故クシテ且ツ粗ナルヲ以テ、此クノ如クセラル、ナルベシ。其言ハ感謝スルニ堪タリ。然リト雖也。巾也者ハ、公ニ用中ズ。其私ニ於ケルモノ、人ニ逢フ、氏ハ之ヲ脱セザル、可カラズ。巾ノ美ナル亦何ノ益カラランヤ。ト遂ニ取ラズ。

櫻所子曰ク、松平伊豆守ハ、徳川氏股肱ノ良臣ニシテ、世稱シテ智囊ト爲ス。酒井忠世、青山忠俊ト並ニ、家光將軍ノ傳トシテ、寛永ノ三輔ト名久。徳川家守成ノ業ニ於テ謀畫スル所多シ。大河内金兵衛ハ其父ナリ。亦恆ネ二輔相ノ職任

ヲ重シ。敢テ伊豆守ニ驕ラズ。而シテ巾ノ美ナル亦何ノ
益カ。アランヤノ一語。拔山ノ氣。扛鼎ノ力ヲ有ス。金兵衛亦
權臣施政ノ如何ニ注目シ。一舉一動。苟モ其心ニ慊セザル
者アレバ。直言以テ之ヲ折ク。伊豆守ノ父タルニ耻ヂズト
イフベシ。吁。寛永ノ時代。何ゾ良臣ノ多キヤ。

第二十

酒井忠真綿衣ヲ以テ納徴トセシ事

酒井修理太夫忠真。其婚娶ノ前ニ當リ。木綿衣十領ヲ以テ
納徴トス。老臣等恠ニ問フ。忠真曰ク。孤ガ藩士ヲ撫育シ。且
公ニ對シテ其職ヲ盡サン。コト欲スレバ。則チ節儉ヲ事ト
スルニ若カズ。故ニ孤モ亦恒ニ綿衣ヲ服ス。又我が妻タル
者ヲシテ。善ク此意ニ順ガハシメザル。可カラズ。若シ之ヲ
否ナマバ。離婚スルハ一事アルノミト。

櫻所了。曰ク。忠真。城ノ主タリ。而シテ其妻ヲ娶ル。綿衣

ヲ以テ納徴トス。今ヤ寒鄉僻地ノ農夫モ。猶ホ綿細ヲ裁シ
テ其婦ニ衣被ス。今古開化ノ度同ジカラズト雖。其公ニ
奉ズルト。私ノ業ニ從事スルトニ論無ク。忠真ノ心ヲ以テ
心トセバ。世人ノ所謂。獨立自治ノ精神ヲ振起スルニ足ル
ベシ。其素行若シ。此ニ反スレバ。其結果モ亦之ニ反ス。

第二十一

酒和田喜六獨斷ヲ以テ金ヲ貸シタル事

積ムデ善ク敬ズルハ。節儉ノ妙用ナリ。若シ財ヲ積聚シテ
丘山ノ如クナルモ。此ヲ活動スルコトヲ知ラザルハ。是レ
守錢奴ノミ。今其財ヲ活用セシ酒和田喜六ノ事ヲ記セン。
喜六ハ寛永時代ノ人。永井信濃守ニ仕フ。信濃守江戸ニ赴
クニ當リ。喜六ヲ留メテ藩勢ヲ諮ベシム。藩士家計ノ給セ

ガルヲ訴ヘ。金ヲ貸與センコトヲ喜六ニ要請ス。喜六即チ其
主ニ請ハズシテ。金庫ヲ開キ。銀子ヲ貫目ヲ貸ス。信濃守江
戸ヨリ歸ルニ及デ。喜六ヲ責メテ曰ク。汝ガ何ゾ孤ニ告ゲ
ズシテ。銀ヲ貸セシヤト。喜六頓首シテ謝シテ曰ク。某固ヨ
リ之ヲ申請スルモ。允可セラレザル。コトヲ知ル。何トナハ
令某ガ請ハズシテ。貸與セシヲ叱責セラル。ヲ以テモ。推
知ス可キナリ。若シ其允可セラレシコトヲ。強テ請求スルハ
不敬ナリ。而シテ之ヲ貸サレバ。藩士ハ窮乏ヲ奈何セ
或ハ止ムヲ得ズシテ。上國ハ商估ニ就テ之ヲ借リ。利子ヲ
其債モニ占有セラレシヨリ。寧ロ金庫ニ儲藏スル所ハ
モノヲ出シテ。之ヲ貸スニ若カズト。シテ。請ハズシテ。銀ヲ
貸與トリ。抑モ主公ガ金銀ヲ儲蓄セラル。ハ。軍備若クハ

公務ノ爲メニ消費スルニ在リ。藩士ハ窮乏ヲ救ヒ。兵馬ノ
數ヲ減ゼザルコトニ意ヲ用ユルハ。則チ軍備ノ基本ニシテ。
士ヲ養テ兵備ヲ怠ラザルハ。則チ公ニ對シテ其職任ヲ盡
スモノト謂フベシ。且ツ夫レ。府庫ノ則ハ之ヲ貸スモ敢テ
消費スルモノニ非ズ。年ニ其十分ノ一ヲ納レシメ。十年ヲ
待テ全ク償還セシムルノ約束ナレバ。上ハ一毫ヲ損ズル
所無クシテ。下モ凍餓ヲ免ガレ。ハ恩澤ヲ被ムル。是某ガ
大利アツテ。小損ナキヲ見。獨斷ヲ以テ斯事ヲ決行セシ所
以ナリ。嚴責重譴ハ固ヨリ期スル所ニテ候ト云ヘケレバ。
信濃守モ其言ノ理アルヲ聞キ。緘嘿シテ止ミケルトゾ。
櫻所子曰ク。將軍家光公。文武兼備ノ士十七人ヲ陪臣中ヨ
リ選拔セラレシコトアリ。酒和田喜六其一ニ在リ。喜六曾テ

道春ニ從テ。儒經ヲ講究シ。又國風ヲ善クセリトイフ。思
フニ喜六其主ニ害ナク其臣ニ利アルヲ視ルヤ。銀ヲ貸シ
テ危ブマズ。專斷ノ責ヲ一身ニ擔フ。豈ニ毅然タル大丈夫
ニ非ズヤ。幕政ノ稍衰フルニ及デハ。士風亦隨テ萎靡シ。官
倉中陳々紅腐ノ粟ヲ堆シ。而シテ野ニ鐵草アレハ發スル
ヲ知ラズ。偶賑恤ノ功益アルヲ知ルモ。嫌ヲ避ケテ敢テ口
ヨリ出サズ。唯己レガ地位ヲ危フセガラシコトヲ努ム。故
ニ國老藩宰ト雖氏。區々タル例格ノ末ニ拘束セラレ。其藩
廳ニ在ル。凜乎トシテ燕ノ幕ニ巢フガ如シ。敢テ己レガ才
力ヲ展ブルコトヲ知ラザルハ。亦立仗ノ馬ニ似タリ。手ヲ拱
シ耳ヲ垂レ。阿諛絨嘿ヲ以テ得タリトシ。苟日怠慢ヲ以テ
宜キニ適フトシ。其利ヲ知ルモ敢テ爲サズ。其害ヲ視ルモ

敢テ去ラズ。左顧右盼。吏議ヲ免カレ。禍ヲ避クルニ汲々ト
シテ。以テ久安ニ僥倖ヒリ。宜ナル哉。上下隔絶シ。言路壅塞
シ。遂ニ維新革命ノ期ヲ促ガシ。封建制度ノ發絶ナラル。
ニ至リシコト。今ヤ制度一革。小失ヲ畧シテ責ムルニ大綱ヲ
以テシ。下モ其上ヲ疑ヒ。上其下ヲ忌ムヨリシテ。常ニ其肘
ヲ掣シテ其足ヲ係ク所アルガ如キ。無クシテ。而シテ吏
タルモノ。肩背ノ芒刺ヲ釋去シ。意ヲ法令ノ外ニ措クヲ得
ル所アルガ如シ。故ニ阿諛絨嘿。苟且怠慢ノ弊痕ヲ留メズ。
然リト雖氏。己レガ地位ヲ危フスルヲモ顧ミズシテ。上下
ノ利便ヲ謀ルニ。酒和田喜六其人ノ如キニ至テハ。蓋シ得
易シトセズ。然レバ則チ。酒和田喜六ノ財ヲ用ユルノ歟ヲ
知ルガ如キハ。抑モ末ナリ。其主ニ事フルノ至誠ニシテ。即

チ満腔ノ赤心アルト。斷行シテ危ブマザル。斗大ノ膽カト
ハ。實ニ歎稱シテ餘リアリト謂フベシ。

第二十二 綾部道弘其子ノ奢侈ニ習フヲ懼レシ事

綾部道弘ハ元祿時代某侯ニ並仕セリ。剛直ニシテ篤行ノ
士ニリ。家貧ニシテ幼キ代學資ノ給スベキナク。艱苦困頓。
東西ニ漂泊シ。聊カモ其志ヲ屈セズ。遂ニ儒典ニ通ジ。傍ラ
醫術ニ達セリ。人トナリ親黨故舊ニ厚ク。紛々解キ難ヲ極
ヒ。其勞ヲ辭セス。長官ニ對スル直言ニテ忌憚スル所無シ。
人始メ其嚴ヲ憚リ。久ノシテ後チ其恩ヲ信シ。里閭相告ゲ
テ。吾黨ノ君子人ト稱シテ尊メリトイフ。道弘自一奉ズル
儉素ニシテ。華飾ヲ喜バズ。偶人アリ。其子ニ彩飾ハ衣ヲ遺
ケルハ。之ヲ服スルヲ許リズシテ曰ク。先君貧素ニシ

テ世ヲ終ワ。我々常ニ孝養ノ意ニ任セザルヲ憾ム。吾々
辛勤多年。幸ニ俸資ヲ享ケテ兒女ヲ養フト雖。其本
忘レテ可ナラシム。況ヤ人情儉ヨリ奢ニ入ルハ易ク奢ヨ
リ儉ニ復スルハ難シ。我々吾ガ兒女ヲ愛セザルハ非ス。
奢侈ニ習ハシメザラシムヲ思フノハ又其子ニ教ユル
ニ。四書小學及ビ古文ノ詩ヲ以テシ。絶テ聲伎博局ノ事ヲ
知ラシメズ。又其子安正ハ江戸ニ在リシ日。書ヲ遺テ曰ク。
予蓬蒿間ニ長シ。頻リニ嶮難ヲ經。以テ今日ニ至ル。未ダ
夙志ハ萬一ヲ償フヲ能ハズ。幸ニ汝チヲ生ム。今年已ニ強
仕。早ク衰羸セルヲ覺フ。オモフニ汝チガ成立ヲ見ルニ及
バサルベシ。合ヤ汝チガ勤學シテ怠ラザルヲ知リ。吾ガ志
願ヲ満足セリ。汝チガ孝モ亦大ナリト謂フ可シ。夫レ道ハ

人倫ニ外ナラス。徒ラニ心ヲ浮華ニ騁セテ。日用ヲ處フスル。勿レ凡ソ事ノ義ニ害ナキ者ハ。時俗ニ從フベシ。國禮ニ違フヲ勿レト。

樓所子曰ク。道弘ノ其子ヲ訓誨スル。人ノ父タル者ノ道ヲ盡スト謂フベシ。父母ノ心ハ人ノ心ナレアリ。而シテ其子女ヲ愛スルノ深キ。之ニ衣食スルニ。鮮麗甘美ヲ以テシ。之ニ習學セシムルニ。歌舞絃管ヲ以テス。故ニ其長スルニ及ハバ。則チ骨軟カニ筋緩フシテ。耐忍剛毅ノ事業ニ堪ユス。奢侈淫逸ノ嗜好ヲ去ル能ハズ。遊冶男子。深奔阿嬾ト爲リ。醜ヲ世上ニ流カス。至ラザル者アルハ。幸ナリ。既ニ奢侈逸樂ニ長ジ。鄭聲南風。其神經ニ薰染スルモ。人世必需ノ學術ニ短ナリ。奚ソ其身ヲ立テ道ヲ行ナヒ樂ヲ父母ニ及

ホスコアルヲ望ムベケンヤ。是原ト其父母タル者。兒女ヲ愛スルガ爲メニ。細テ兒女ヲシテ百年ノ身ヲ護ルノ不幸ニ陷ラシム。古人曰ク。訓導ノ嚴ナラザルハ。父ノ過チナリト。人ノ父母タル者。宜ク道弘ヲ以テ龜鑑ト爲ス可キナリ。

第二十三 奥貫五平次飢民ヲ賑恤セシ事

奥貫五平次ハ。武藏國八間郡河越ノ人ナリ。友山ト號ス。世農桑ヲ業トシ。邑ノ豪民タリ。少アシテ學ヲ好ミ。江戸ニ遊ビ。業ヲ成島錦江ノ門ニ受ク。學成テ郷ニ歸ル。從學スルモ多シ。寛保中。關東洪水アリ。八間郡最モ其害ヲ受ク。民舍湮没數十里ニ亙ル。五平次即チ食ヲ舟ニ載セ。僮僕トトセ。二。糶ヲ搖カシテ。以テ往キ。餓者ニ飲食トシメ。其濕處ヲ視テ。病者ハ。悉ク之ヲ載セテ還リ。已レガ家ニ養撫スル數百

人因テ其父ニ請フテ曰ク。大人平生兒ニ誨エ儉ヲカメ用
ヲ節ス。豈ニ今日ノ急アル為メナラズヤ。願クハ家世ノ積
聚スル所ヲ以テ之カ賑恤ニ當テント。父喜ムテ之ヲ許ス。
是ニ於テ大ニ倉廩ヲ發キ。飢民ニ施與ス。流氓男女傳ヘ聞
キ。爭テ臻ル。門前市ノ如シ。五平次多ク粥ヲ作。奴ノ最モ
恭謹ナル者數人ヲ擇ビ。以テ之ヲ待タシム。戒ノテ曰ク。餓
者固ヨリ貧ナルニ非ズ。謹ムデ輕慢スル勿レト。至レバ厚
ク之ヲ弔慰ス。飢民其辱キヲ拜ス。五平次一ニ實客ニ接ス
ルガ如クシ。壯幼ヲ問ハズ。人ゴトニ米四升ヲ與ヘテ行カ
シム。受クル者感謝セザルハ無シ。既ニシテ廩盡ク。又人ハ
シテ金ヲ四方ニ齎ラシ。穀粟及ビ大豆。蕎麥ヲ買ハシム。金
モ亦盡ク。又父ニ請フテ。田宅ヲ江戸ノ富商ニ質トシ。金ヲ

得以テ之ニ繼グ。冬十月ヨリ翌年ノ夏四月ニ至テ止ム。惠
施ハ及ブ。所四十八村。終始救フ。所十萬六千人餘。事官ニ聞
ス。大ニ錢帛ヲ賞賜シ。門閭ニ旌ス。

河越侯秋元但馬守涼朝執政タリシ時。大ニ五平次が為人
所ヲ悦ビ。召見シテ時服佩刀ヲ賜フ。為ニ盛饌ヲ設ケ。其宰
臣ヲシテ伴食セシム。五平次飯ニ挽羹一。挽ヲ喰了。其餘
ニ及バズ。大夫鮮蓋ヲ啜ル。トヲ勸ム。五平次曰ク。四民飢渴
シ。老穉凍餒ス。王侯ニ非ルヨリハ。甘美ヲ食フ可カラズト
云フ。テ食セズ。

明和中。武藏相摸。上野。三州荒饑ス。奸民相集テ盜ヲ為ス。富
商ヲ劫奪シ。民舍ヲ毀壞ス。暴亂甚ダ多シ。有司坊正之ヲ檢
スレドモ。其人ヲ知ラス。將サニ友山ガ家ニ及バントス。一

人走テ至リ。大ニ其徒ヲ呼デ曰ク。是レ我が奥貫翁ノ居ナ
リ。昔シ寛保ノ水災。翁在ルヲ以テ。我が祖父母兄弟ヲシテ
生存ヲ得セシム。汝ガ之ヲ知ルカト。衆大ニ駭キ。相與モニ
顧ミテ曰ク。我儕庇恩ヲ報スルノ力無シ。而シテ反テ虐ス
ベケンヤト。門外ニ俯伏シテ去ル。故ニ其四隣。ミナ之ガ爲
メニ暴亂ヲ免ガルト云フ。

櫻所子曰ク。奥貫友山ハ儒學ヲ以テ名ヲ得タル者ナリ。而
シテ其爲ス所。尋常腐儒ノ得テ能スベキ所ニ非ズ。宜ナル
哉。暴民ノ與貫翁ノ居ナリト聞ケバ。則チ俯伏シテ去ルニ
至レル。丁。吁。友山ノ如キハ。真儒ト謂フベキナリ。

第二十四 大黒屋善兵衛橋本某ヲ感悟セシメシ事
江戸十軒店ノ絲帛舗ニ家號ヲ大黒ト一ヒ。名ヲ善兵衛ト

稱スル者アリ。資産殷富ナレト。自ラ意ヲ家事ニ經セズ。利
中ニ生レテ利ヲ脱シ。才識アリテオヲ用ナズ。故ヲ以テ。恆
ネニ黑蒼黃赤ノ色。修短寛窄ノ製ヲ錯誤シ。顧客ノ愠怒ヲ
受ク。輒チ微笑シテ曰ク。僕稟性迂濶ナル。命ズルニ此煩瑣
ノ役ヲ以テセラル。豈任用其人ヲ得ザルニ非ズヤ。自反シ
テ之ヲ恕セヨト。顧客亦笑テ止ム。爲メニ折價スル丁屢ナ
ルモ。敢テ省セズ。亦一奇人ナリ。偶親家橋本某ナル者アリ。
年猶ホ若クシテ父ヲ喪ヒ。放肆蕩散。檢束スル丁ヲ知ラズ。
娼妓ニ惑溺シ。亦家道ノ日ニ衰頹スルヲ省ミズ。其母頗ル
之ヲ憂懼シ。親族ヲ招テ誠規シ。埋義以テ之ヲ折キ。温言以
テ之ヲ喻トス。善兵衛席ニ在リ。唯嘿坐シテ煙ヲ喫マルノ
ミ。未ダ始メヨリ一語ヲ置カズ。俯仰次伸シテ。衆ニ先ダツ

テ辭シ去ル。後チ一日。某來謝シテ曰ク。僕ノ愚蒙ナル。久シク親家ヲ累ハス。今ヤ曾非ヲ覺トル。懃悔スレ。氏及ブ。無シ。然リト雖。氏。僕マサニ將來ヲ戒慎シ。以テ前過ヲ償ハント欲ス。可ナランヤト。善兵衛曰ク。甚ダ善シト。某復タ襟ヲ斂メ。謂テ曰ク。嚮キニ妓ノ僕ニ要求スルニ。春服ヲ以テセリ。僕過テ諾ス。追悔スレ。氏及バズ。苟モ言ヲ食ム。テ果サドルハ。男子タルモノ。辱ナリ。僕ガ畢生ノ所願。唯。此一事アルノミ。自今以後。誓テ花柳ノ地ヲ履マゲラシ。善兵衛曰ク。信ニ然ラバ。又何ゾ不可ナラムヤト。某又曰ク。其約スル所。衣帶ハ云々ニシテ。漆繡ハ云々ナリ。價約ネ五十金。伏シテ願クハ。子ノ擔當シテ之ヲ作シヨヲ。成ルノ日。將サニ其直ヲ償ハントス。未ダ知ラズ肯許セラルトヤ否ヤト。善兵

衛曰ク。是レ吾ガ業トスル所。之ヲ辨ズルニ。於テ何カアラシ。但。歲已ニ暮ル。恐クハ速カニ成リ難シ。晦夜以テ期ト爲ス。何如シト。某欣喜拜謝シテ去リ。往テ妓ニ誇テ曰ク。吾レ汝ダガ爲メニ春服ヲ命ズト。已ニシテ除タニ至ル。夜マサニ半バナラシトス。未タ齋チ來ラズ。某恠ミ。數人ヲ差ハシテ之ヲ促ガス。善兵衛是ニ於テ衣ヲ分テ二帔ト爲シ。奴ヲシテ之ヲ負フテ至ラシム。某狂喜シテ帔ヲ發ケバ。綿衣二十。皆皂色ニシテ。橋本氏ノ章ナリ。某愕然トシテ措ク所ヲ失シテ曰ク。除夜ノ紛擾ナル。誤テ他物ヲ輸セシニ非ル無キヲ得ンヤト。善兵衛色ヲ正フシテ曰ク。咄。汝ガ父死シ。一作善無ク。色ニ荒サ。産ヲ破リ。憂テ母氏ニ貽スハ。何ハヤ。因テ名簿ヲ懷ヨリ出シ。之ニ示シテ曰ク。是レ皆ナ。故舊

家奴ニ係ル、貧困ニ至、凍栗歳ヲ守ル者ナリ。吾爲メ、ニ春
服ヲ製ス。速カニ人ヲ差ハシテ分給セヨ。且ツ一妓ニ衣ス
ルハ、二十人ニ衣スルニ孰與レト。某茫然トシテ自失ス。復
々奈何トスベキ無ク。遂ニ其言ノ如クス。明日陸續來テ年
ニ拜シ、恩ヲ謝シ、家章鵲班鷺列シテ、懽聲星ニ溢レ、祥氣瑞
光、意料ノ表ニ出ヅ。而シテ妓ハ則チ怨ミヲ鳴シテ之ト絶
ツ。其始メテ感悟スル所アリ。遂ニ志ヲ改メテ修敬シ、家産
稍々故ニ復セリトイス。

櫻所子曰ク、世ノ滯靡ニ趨クヤ、情波欲濤ニ浮沈スル所ノ
蕩子治郎、其人ニ乏シトセズ、而シテ親朋ノ理義以テ之
拍キ、温言以テ之ヲ諭トスアリト雖モ、其迷雲疾霧ヲシテ
解散セシムルニ足ラザル。恰カモ雷聲ガ皮膚ヲ刺衝スル

ノ藥劑ヲ投ジテ、骨髓ニ滲漸スルノ病病ヲ療ゼントス
ガ如シ。善兵衛ノ之ニ處スル、人ノ意表ニ出テ、善ク敗ヲ轉
ジテ功ト爲シ、昏ヲ明シテ明ト爲サシム。猶ホ良醫ノ一劑
ヲ投ジテ、頓ニ回生起死ノ効ヲ奏シ、患者ヲシテ、肢体清穩、
神氣爽快ナラシムルガゴトシ。領フニ此巧妙ノ手段ヲ以
テ、移シテ大事ニ施サバ、假令盤錯處シ難キニ逢フト雖モ、
勢ヒニ因テ伎倆ヲ逞フスル、猶ホ庖丁ノ牛ヲ解クガゴト
ク、綽然トシテ餘地アルヲ得ン。美ゾ帝ニ妓ニ與フル者ヲ
轉ジテ、家奴ニ與フルノ棄除ニ止ランヤ。

第二十五 釋月仙貧鄙ノ請リヲ避ケザリシ事

釋月仙ハ伊勢ノ僧ナリ。幼ニシテ剃度ス。性畫ヲ好ミ、遂ニ
其妙ヲ極ム。名海内ニ最。然カモ甚ダ潤筆ノ資ヲ得ルヲ

欲ス、畫ヲ請フ者アル毎ニ、必ズ先ヅ價ヲ論ジテ後チ筆ヲ起スニ至ル。是ニ因テ世其貪鄙ヲ毀ル。月仙願ミザルナリ。一名妓アリ。其畫ヲ善クスルヲ聞キ。奴ヲシテ來テ之ヲ請ハシム。月仙先ヅ價ヲ論ズ。奴返リ告グ。妓曰ク。價ハ宜ク其欲スル所ニ從フ可キナリト。畫成ル。月仙親ラシテ來ル妓。嫖客アルニ會ス。宴方ニ盛ナリ。乃チ月仙ヲ引キ。帝末ニ就カシメ。金若干ヲ攫ミ。帝ヒニ擲チ以テ之ヲ與ヘテ曰ク。金以テ畫ヲ買フナリ。噫。賣畫僧齒スルニ足ラズ。買フ所ノ幅。掲グルニ足ラズト。是ニ於テ衣裳ヲ脱シ進ム。獨人中ニ立チ。自ラ其禪ヲ解キ。幅ニ代テ壁上ニ掲。久因テ笑テ曰ク。雅軸ヲ獲ズト。雖氏亦佳禪ヲ獲タリト。一坐之ガ爲メニ目ヲ掩フ。月仙熟視シテ愧ル。色無シ。後チ益其價ヲ貴フシ。其

獲ル所ノ金ヲ袖負シ遂ニ以テ巨富ヲ致スト云ノ。一々雲衲僧大雅來リ宿シテ曰ク。水雲ヲ心ト爲シ。樹石ヲ棲ト爲ス。豈ニ鼻祖ノ教ニ非スヤ。假令寺ヲ出デ。山ニ入ルヲ能ハザルモ。書畫利ヲ徵シ。以テ富ヲ致ス。何ゾ銅臭ヲ嗜ムノ甚シキヤ。是豈ニ特リ和尚一人ノ汚辱ノミナランヤ。請フ。旃レヲ改メヨト。月仙曰ク。洵トニ然リ。抑モ予ノ畫ニ於ケル。固ヨリ已ム可クシテ。已マザル者。蓋シ以ヘアルナリ。予孤ニシテ貧シ。戚族拉シテ予ヲ茲寺ニ投ズ。師之ヲ憫ミ。卵ニシテ翼ス。師ニシテ父母ノ恩ヲ兼ヌ。寂スル。臨ミ命シテ以テ寺主ト爲ス。水雲ヲ心ト爲シ。樹石ヲ棲ト爲ス。能ハサルナリ。往年ハ凶荒。茲ハ土特ニ甚シ。餓草相枕シ。道殣相望。リ。因テ意フニ。書畫ハ玩物ナリ。而シテ之ヲ愛スル。

必ス貧者一非ス。今ヨリ以テ忍辱シテ揮灑シ其潤筆ヲ蓄
積ムニ歲月ヲ以テセバ。庶幾クハ以テ少ク凍餒ヲ賙ハ
ス。ニ足ランカ。幸ニシテ請フ者陸續トシテ門ニ及ブ之ヲ
人ニ託シ積ムテ五百金ヲ得乃チ山田奉行ニ屬シ以テ數
村ノ凶荒ニ充ツ。則チ宜ク已ムベシ。然レ氏又謂ラク逢山
險隘ニシテ來テ大廟ヲ拜スル者之ヲ病ム。先師恆ニ以
テ憂ト爲ス。乃チ爲メニ揮灑シテ三百餘金ヲ得タリ。因テ
功ヲ興シ險以テ夷カニ隘以テ豁カニシテ行旅之ヲ喜ビ
謳歌シテ過ク。則チ將サニ筆硯ヲ燒カントス。此ヨリ先キ
先師將サニ堂宇ヲ修繕ヒントシ。果サズシテ逝ク。今ヤ堂
宇頗ル傾キ杜楹益蠹ス。因テ又將サニ其志ヲ繼ガントス。
予已ニ老タリ成否必シ難シ。然リト雖。氏今此ニ從事ス。軀

猶ホ頑健ニシテ財モ亦稍聚ル。要ムルニ三年ヲ出デズシ
テ將サニ志ヲ償ハントス。此レ余ノ銅臭ヲ嗅テ厭ハザル
所以ナリ。此一事ヲ了スレバ。將サニ心ヲ洗ヒ真ヲ修シ定
後ノ真諦ニ歸セントス。爾時財ハ即チ乾屎橛ノミ。適スレ
バ則チ揮フ。適セザレバ則チ已ム。銅臭ニ何アラシヤト。大
雅大ニ感ジ拜シテ去ル。
櫻所子曰ク。凶荒ニ備ヘ道途ヲ修夷スル。豈ニ濟世ノ美舉
ニ非ズヤ。志ヲ繼デ堂宇ヲ修補スルハ。師長ノ恩ニ報ズル
ナリ。而レテ此濟世繼志ノ爲メニ忍辱含垢。以テ黽勉拮据
能ク其志願ヲ滿足ス。月仙ノ事洵ニ多トスルニ足ルモノ
アリ。世ノ僧徒ノ身ニ錦繡紫紅ノ衣ヲ纏ヒ口ニ因縁因果
ヲ説キ之ヲ望メバ儼然トシテ活佛ノ如クナルモ。其心裡

ヲ察スレバ營名貪利至ラザル所無ク。愛憎嫉妬。修羅ノ闘
諍ヲ事トスルニ非レバ。則チ有財餓鬼タリ。常見ノ外道ノ
部類ニ非レバ。則チ斷見ノ魔王ノ眷屬タル輩ニ比スレバ。
月仙豈ニ日ヲ同フシテ語ル可キモノナランヤ。

第二十六 春夫八藏ガ達ナル事

春夫八藏ハ。信濃國某村ノ農夫ナリ。信濃ノ俗タル。毎歲秋
冬ノ交壯者相誘シテ江戸ニ來リ。自ラ鬻キテ奴トナリ。春
來南畝ニ事アルニ及ンデ去ル。而シテ都門ノ繁華ニ慣レ。
顧戀シテ還ラズ。遂ニ都籍ニ入ル者。往々ニシテ在リ。八藏
始メ郷人十餘輩ト俱ニ來リ。而シテ亦留ル者四人。八藏其
一ナリ。俱ニ連房ヲ淺草福富坊ニ賃シテ居ル。履齒ヲ補フ
者。大車ヲ挽ク者等。各自業ヲ異ニス。八藏ハ則チ人ニ役キ

セラレテ米ヲ舂ク。孜々砵々トシテ。各其勤ノニ服ス。而シ
テ或ハ酒ヲ飲ミ。或ハ賭博シ。或ハ花柳ニ遊蕩ス。其嗜好ヲ
一ニヒズ。隨テ獲レバ隨テ費シ。半文錢ヲ宿メズ。八藏獨リ
衣食ヲ損ジ。嗜欲ヲ忍ビ。意ヲ一ラニシテ。貯蓄ス。錢ヲ積ム。
テ銀ニ換エ。銀ヲ化シテ金ト爲シ。日ニ積ミ。月ニ化シテ。貴
頗ル富ム。暇アレバ。則チ橐ヨリ出シテ。青眼欣如摩挲シテ。
以テ樂ム。儕輩其所爲ヲ笑フ。一日之ニ謂テ曰ク。夫レ人ノ
筋骸ヲ勞シ。能ク耐エ難キニ耐エ。忍ビ難キニ忍ブ者。豈他
アラシヤ。財ヲ獲テ以テ嗜好ヲ遂ゲントス。養生延年ノ道
乃チ爾リ。然ラズンバ金ヲ積ムデ星斗ヲ撐フルモ。亦何ノ
用ニル所ゾ。日ノ獲ル所夜ハ則チ散ジ盡シテ。日出デ。力
作シ。錢ヲ攫ムデ還ル。身アリ錢アリ。樂ムデ以テ歲ヲ送ル

ハ。此レ太平雨露ノ恩。吾儕ノ郷ヲ離レテ都ニ宅スル所以
ナルノミ。今汝チハ貯蓄シテ用キズ。知ラス何ノ意ゾヤ。盡
バ速カニ故郷ニ歸ラザルヤト。ハ。藏笑テ答ヘズ。然レ氏竟
ニ其爲ス所ヲ改メス。儕輩竊カニ指斥シテ曰ク。諸ニ所謂
疾ヲ醫スル藥無シトハ。ハ。謂ナリト。既ニシテハ藏疾ニ
寢ネ。荏苒月ヲ踰エテ起色無シ。一日三人謂テ曰ク。同郷相
長ジ。今同爨共食ス。情兄弟ニ同ジ。今疾日ニ漸ム。吾儕甚タ
之ヲ危ブム。若シ不幸ニシテ起タズンバ。其貯フル所ノ金
ハ。如何ガ處措セン。請フ今ニ及ムデ之ヲ言ヘ。ハ。藏笑テ曰
ク。人各嗜好スル所アリ。此ヲ以テ心身ヲ勞苦ス。用ヒテ以
テ其欲スル所ヲ遂グルニ及ベバ。則チ洒然トシテ以テ樂
ミ。愉然トシテ自適ス。其跡ハ同ジカラザルモ。其樂ミト爲

スハ則チ一ナリ。要スルニ各其樂ミヲ樂ムノミ。予ヤ積ム
デ用キズ。玩弄以テ自ラ娛ム。是レ我が無上ノ樂ミノミ。其
然ル所以ハ。則チ吾ト雖凡知ル能ハズ。今索中ノ物ノ如キ
ハ。吾ガ平生樂ミタル所ノ藏ナリ。又何ゾ顧戀センヤ。鑒ニ
謝シ骸ヲ埋ムルノ餘。一ニ之ヲ汝ガ曹ノ處分ニ委ダヌ。以
ツテ飲ミ。以テ賭シ。以テ妓ヲ買ヒ。請フ馬ヲ用キ。以テ其樂
ミヲ樂メヨヤト。是ニ於テ儕輩愕然トシテ曰ク。達斯ハ如
キハ。ハ。則チ凡人ニ非ズ。聖人ナリト。幾クモ無クシテ歿ス。
一ニ其言ノ如クセリト云フ。

櫻所子曰ク。嗚呼達ナル哉。ハ。藏ヤ。凡ソ挽夫舂夫ノ人ニ雇
役ヤラル、者。概ネ隨テ得レバ則チ隨テ散ズ。人煙稠密ノ
都會ハ。貧民モ亦夥多ナル者。他無シ。裏店横坊。皆斯輩ノ巢

窟々ラザル無キヲ以テナリ。然レバ則チ、都會ノ繁華十、六七ハ、斯輩ヲ以テ組織セラル、トイフモ可ナリ。故ニ米價ノ沸騰、疾疫ノ流行アル、其飢渴ヲ訴フル者ノ多キ、亦都會ヲ以テ最第一トス。即チ得ルニ隨テ散ジ、亦一錢ヲ貯蓄スルコヲ知ラザルヲ以テナリ。聞ク嘗テ都下ノ職工ハ、經膏ノ金ヲ用キザルヲ以テ、江戸兒ノ氣象ヲ誇レリト。然ルニハ藏眼ニ一丁無ク、亦理ヲ知り道ヲ學ブモノニ非ズシテ、善ク浮躁ノ風習ニ薰染セラレズ。儕輩ノ訾笑ヲ顧ミズ、殆ンド下愚ノ移ラザル者ニ似タリ、而シテ其平素貯蓄スル所アルヲ以テ、鑿ニ謝シ骸ヲ埋ムノ費ヲ辨ズルニ餘リアルノミナラズ、其餘澤以テ儕輩ニ及ボスニ足ル。且ツ夫レ、自ラ起タザルヲ知ルヤ、平生愛玩スルニモ似ズ、毫モ執

着ノ念無シ、恰モ岡野左内ト其臭味ヲ同フスル、亦奇ナラズヤ。故也。一語、其胸襟ノ洒々落々タル、左内ガ舊券ヲ攬ト、モニ、焚如ニ付セシニ譲ラス。視ヨ、得ルニ隨テ散ジ以テ口腹耳目ノ嗜好ヲ遂ゲテ、儲フルヲ知ラズ、疾病事故アルニ際シ、醫藥ノ求ムミキ無ク、埋葬吊祭ノ費無キハ貧民ノ常態ニノ、日夜逐々トメ利ヲ趨ヒ、鉢積寸累シ半錢以テ人ニ貸サス、一毛以テ人ヲ利セズ、ハニ内ヒズ、體一縮セズ。冥然トメ貸財ヲ守リ、以テ生涯ヲ送リシ、續ヲ屬スルニ至此顧惜春戀ノ措カザル者ハ、守錢奴ノ情況ナリ。ハ藏ヲテ此貧者ノ散ジテ畜フルヲ知ラザルト、守錢奴ノ積ムヲ用ユルヲ解セザルトノ情狀ヲ評セシメバ、必ズ曰ハシ、痴ヲ鑿スルノ藥無シト、噫。

第二十七 狂生田某ヲシテ禍ヲ免カレシメシ事

狂生某トイフ者アリ。何許ノ人ナルヲ知ラズ。或ハ曰フ陸奥ノ人ナリト。幼ニシテ父母ヲ喪ナヒ。依托スルニ門無久。東面遠離スル十數年。遍ネク大都通邑ヲ遍歷シ。餓エレバ則チ人家ニ沿テ酒食ヲ乞フ。醉ハバ則チ嘯唱歌呼ス。人呼テ狂生トナス。因テ自ラ以テ名トス。年二十江戸ニ入テ昌平驛ノ傍ニ露卧シ。日ニ絃誦ノ聲ヲ聽キ。欣然トシテ神會スルニ色アリ。一旦翻然トシテ人ニ語テ曰ク。我モ亦人ナリ。四肢五官一モ具ハラザルヲ無シ。天ノ我ニ與フルヲ渥ス。是ノ如シ。我ハ則チ狂生ヲ以テ終ノル。可ナランヤト。乃チ戸部大貲ニ十謁シ。薪水ヲ操ルヲ請フ。人ミナ生ノ狂ヲ恐レ。取テ許サズ。生嘆ジテ曰ク。都人トハ皆官聲ノミト。去

テ常野ノ間ニ彷徨ス。野刈宇都宮ニ豪農田某ナル者アリ。除タニ會ス。主翁出デ、逋ヲ督ス。忽チ一人ノ蓬頭藍面。瘦羸骨立セルモノ。其後ヘニ從フ。大ニ駭キ以テ窮鬼トス。叱シテ曰ク。去レ其人。一歎一笑シテ曰ク。嗚呼。我瘁ム。宜ナルカナ翁ノ目スルニ窮鬼ヲ以テスル。翁モ亦禍福轉換ノ機ヲ知ルカ。窮極テ富生ジ。富極テ窮來ル。然ルハ翁ノ富未ダ持ムベカラズシテ。我ノ窮悲ムベキニ非ズ。天下固ヨリ其眼ヲ繼續ニシテ。其心ヲ錦繡ニシ。形チノ瘦セテ智ノ肥タル者アリ。其皮ヲ豹ニシ。其質ヲ羊ニシ。財ニ富ムデオニ貧キ者アリ。今翁ノ眼表裏ヲ辨ゼズ。人鬼ヲ判ゼズ。惑ヘル甚キ者ト謂フベシ。翁モ亦聾盲ノ徒ナル哉ト。マサニ浩歌シテ去ラントス。翁其言ヲ奇トシ。引テ與モニ歸ル。其門

ニ及ビ、翁大呼シテ曰ク、我福神ヲ得タリト。家人皆出迎
レバ、則チ乞食狂生ナリ、蓋シ生屢米錢ヲ翁ノ門ニ乞フ、而
シテ翁ハ毎ニ深奥ニ在テ知ルニ及バザリシナリ。家人交
シテ、翁ヲたがム、翁可カスンテ曰ク、彼レハ佯狂者ナリ、豈ニ真
ニ乞食ノ徒ナランヤ。苟モ我ガ用ヲ爲サバ、以テ我ニ福
ナラスヤト。是ヨリ厚ク衣食ヲ給シ、之ヲシテ諸難ヲ理
メシム。生日、夜拮据シテ、精敏人ニ過グ。事遲滯無ク、家政整
肅ス。隣里相告ゲテ曰ク、田氏佳僕ヲ得タリト。是時ニ當リ、
幕政衰頓シ、紀綱弛解ス。内憂外患競ヒ起ル。之ニ加フルニ
年穀實ラズ、物價昇騰シ、飢餓ニ苦ム。民所在ニ盜ヲ爲シ、
四境騷然タリ。生亂形已一成ルヲ知リ、一日主翁ニ説テ曰
ク、禍亂ハ機朝夕ヲ測ラス、而シテ主家素封ヲ以テ、聞ユ宜

ク速カニ貯蓄ヲ散ジテ、恩義ヲ郷人ニ結ブ。ト。夫レ
一、鬻ハ肉、賣シテ空庭ニ在ル。貪蠅、饞蟻、相聚テ之ヲ爭フ。ハ
ハ、糜爛セラル。無シ。苟モ主家ニシテ孤立セバ、猶ホ鬻肉
ノ委テ、庭ニ在ルガトシ。郷人ノ貪蠅、饞蟻、タラサルヲ
欲スレ。氏得ベケンヤト。主翁頗ル悟ル、乃チ貸券數百金、千
圓、穀千斛ヲ散ジシ。以テ窮孤ヲ賑恤ス。幾クモ無ク、水戸ノ藤
田黨、尊攘ヲ唱ヒ、兵ヲ常野ノ間ニ起ス。勢ヒ風雨ニ如ク。豪
農大賈、多ク劫掠セラハル。而シテ田氏獨リ德望ヲ以テ免ガ
ル。翁大ニ喜ム。デ曰ク、狂生ハ果シテ是レ我々家ノ福神ナ
リト。

櫻所子曰ク、今ノ所謂殖産家、多クハ刻薄ニシテ、厘毛ノ末
利ヲ爭フヲ知ルト雖、氏慈善ノ何事タルヲ知ラス。其貧者

ヲ視ル。犬羊ノ如クス動モスレバ輒チ曰ク。彼レガ愚チ
ル。斯ノ如シ。故ニ貧ナリト。貧者豈ニ盡ク愚ナランヤ。種
種ノ困難ヲ經種々ノ不幸ニ罹リ。才智アリ德操アル者ニ
シテ。途窮ヲ哭スルアル。古來其例多シ。而シテ貧人ノ富家
ヲ視ル。仇敵ノ如クスル者モ。亦其心ニ嫉妬ヲ懷クナキ
ニ非スト雖氏。至竟富家ノ恩ヲ施サズシテ。威ヲ用ユルヲ
先キトシ。出納ニ吝ニシテ。兼併ニ急ナルニ由ルナリ。故ニ
亡頼ノ徒。貧民ヲ嫉シテ。竹槍席旗ノ暴舉ヲ企ツルカ如キ
事アルニ際セバ。則チ富農大估。概ネ之カ魚肉トナルヲ免
ガレズ。況ヤ兵亂ニ於テヲヤ。若シ富者ニシテ其郷閭ノ貧
人ヲ待ツ。親戚子弟ノ如クシ。恆ニ恩惠ヲ施ス。アラハ貧人
亦頑石木偶ニ非ルトリ。何ゾ應分ニ報酬スルヲ思ハザ

ランヤ。

櫻所子曾テ之ヲ古老ニ聞ク。昔シ某地ニ一豪農アリ。素封
ノ富列郡ニ比無シ。而シテ其倉庫一モ鎖鑰無ク。夜戸ヲ扃
サズ。然ル所以ハ。接近數十ノ村落。一人トシテ其恩惠ニ浴
セサル者無キヲ以テ。之ガ萬一二報スルカ爲メニ。村民相
約シ。風雨寒暑ヲ論ゼズ。毎夜十數人。來テ宿衛シ。家ノ四邊
ヲ警護ス。是固ヨリ村民自ラ爲ス所ニシテ。倚托セラレタ
ルニ非ルヲ以テ。暮ニ來テ晨タニ去リ。敢テ其家人ヲシテ
知ラシメス。此ノ如クニシテ渝ハラザル者數世ニ及フ。是
倉庫及ビ筐筥等。スベテ鎖閉スルヲ須キサル所以ナリト。
其恩ヲ閭里ニ布クハ。深キ想フ可キナリ。然ルニ之ニ及ス
ル一語アリ。昔シ北陸ニ一豪農アリ。村民數百人連盟シ。

竹槍隊ヲ成シテ其家ヲ圍ミ、吶喊火ヲ放チ、驚走狼狽スル
所、主翁及ビ家族七人ヲ捕ヒ、叢槍亂刺シテ悉ク之ヲ殺
シ、踊躍シテ去ル。官即チ其罪魁十人ヲ逮捕シテ、其間ニ磔
スト。夫レ衆ヲ煽動シテ人ヲ殺シ家ヲ燬ク、其首魁タル者、
固ヨリ嚴刑ヲ免ガル可カラザルヲ知ラン、而シテ斷乎此
慘虐ノ事ヲ爲シ、各自ノ生命ヲ愛シマス、亦其父母妻子ノ
悲痛ヲ顧ミザル者、豈ニ故無シトセンヤ。必ヤ平素ハ所爲
富有ノ力ヲ以テ、貧人ヲ待ツハ、太ダ刻薄トリシ、一激スル
所アルニ由ルナル可シ。此ハ行跡ヲ以テ、前ノ事實ト對照
セバ、猶ホ越歷氣ノ消積ニ極メ如シ。仁暴變化シテ、殃福
處ヲ異ニスルヲ視ルニ足レリト。此言固ヨリ傳聞シテ耳
底ニ存スル所ヲ記スルノミ、其年時一姓氏ト、如キハ、既

ニ遺忘セリ。然レモ今田某ガ德望ヲ以テ、藤田黨ノ劫掠ヲ
免カレ、果シテ狂生ノ福神タリシトヲ驗知セシノ條ヲ錄
スルニ及ビ、讀者ヲシテ溫公ガ陰德ヲ冥々ノ裡ニ積ムヲ
以テ、福祉ヲ子孫ニ貽スノ長策トセシ言ノ妄ナラザルヲ
感發セシムルノ一端ニ供センガ爲メ、茲ニ附記ス。知ラズ、
世ノ富者、果シテ首肯スルヤ否ヤ。

第二十八 新見屋新右衛門少女ヲ救ヒ禍ヲ免ガレ
事

新見屋新右衛門ハ、野刈守都宮ノ妹濱ナリ、未ダ其姓ヲ詳
カニセズ。億料奇中、大ニ殷富ヲ致ス。已ニ老タリ、親戚之ヲ
規シテ曰ク、今乏シキ所ノ者ハ財ニ非ズ、智ヲ役スルヲ度
一過グルハ、攝生ノ道ニ非ズ、請フ意ヲ商事ニ絶チ、優遊以

テ歳ヲ卒ヘヨト。新右衛門曰ク。大二善シ。但、今秋將廿一大
贏利アラントス。見ル所決シテ錯誤セズ。此一着ヲ了シテ
後々、局ヲ斂メテ間ニ就カント。乃チ江戸ニ抵リ事ニ從フ。
果シテ數百金ヲ攫ス。笑テ曰ク。吾少ヨリ、老ニ至ルマデ、碇
碇トシテ、賞ニ服ス。未ダ嘗テ、故意興ヲ遣ラス。吾將サニ畢
世ノ愉快ヲ極メ、索ヲ垂レテ還ラントス。乃チ書ヲ報ジ、親
姻故舊ヲ招キ、拉ッシ以テ花ヲ賞シ、月ヲ弄シ、演戲ヲ觀、北里
ニ遊ブ。往ク所絲肉涌起シ、銅臭人ヲ醉ハシム。一日永代橋
ヲ過グ。時ニ晚間、五色辨ゼズ、人アリ將サニ踊テ水ニ投ゼ
ントスル者ノ如シ。電行シテ之ヲ掣ル。少女ナリ。將リニ脱
投セントス。緊抱シテ放タズ曰ク。何ノ故ゾ。泣テ曰ク。理死
セザルヲ得ス。願クハ遺放セヨト。之ヲ謝シテ曰ク。誘一曰。

ク。膝猶ホ相謀ル。ニ足ハト予豈膝ニ勝ラスヤ。蓋ソ其實ヲ
語ラサルト乃チ謝シテ曰ク。妾幼ニシテ父ヲ喪ヒ、家道稍
落ツ。母ハ親家ニ寄食シ、妾身ヲ鬻グ。五年、某家ノ婢ト爲
ル。未^カ牌^カ主^カ翁^カノ命ヲ奉シ、金三十兩ヲ齎ラシ。諸レヲ某氏ニ
致ス。途ニシテ之ヲ失フ。索搜スレモ得ズ。贖ハンカ資無シ。
實ヲ告ケンカ。家貧シケレバ必ス曰ハン。粗^{イリヤウケラシムコト}膽^{イリヤウケラシムコト}虛捏シテ此
匪事ヲ作スト。身死スレハ則チ白カナリ。死ヲ決スル所以
ナリ。但、明年期滿ツ。阿母之ヲ待ツ。日、年ノ如シ。妾ニシテ死
ス。阿母ノ駭悲如何ト爲ルヤ。涕泗雨ノゴトク下ガル。新右
衛門多方之ヲ諭シ曰ク。三十金^生ヲ買フハ廉シ。吾將サニ
之ヲ買ハントスト。與フルニ、金ヲ必^ハテシ。且、ハ教ヘテ曰ク。
速カニ還リ事ニ託シテ、遲緩ヲ謝セヨト。女感涙固辭ス。強

日本書紀 卷之六
テ之ヲ與フ姓名里居ヲ問ヘバ。笑テ曰ク。余ハ田舎翁ナリ。
ト告ケズシテ去ル。後チ數年、親家年少三輩ヲ携ヘテ、八幡
祀事ヲ深川ニ觀ル。山車巧ヲ爭ヒ歌舞新ヲ競ヒ、觀ル者都
鄙ヨ傾ク。永代橋ニ至ルニ及ビ、觀者填溢シ、肩相摩シ踵相
躡ミ、步地ニ着カズシテ。自ラ進退ヲ爲ス。滿街狂ノコトシ、
時ニ女アリ。來テ袖ヲ牽テ語ル。新右衛門曰ク。似タル者ヲ
誤認セシニ非ルカト肘ヲ奮テ顧ミズ。女緊抱シテ故タズ。
新右衛門大ニ怒リ、喝シ且ツ曰ク。何ゾ不敬亡狀ナル。年以
輩其レ我ヲ何トカ云ハント。時方ニ喧嘩言語達ヒズ、唯、吻
動キ色變スルヲ視ルノミ。女力ヲ極メテ牽引ス。遂ニ年以
ト相失シ。橋側ノ茶肆ニ入ル。女謝シテ曰ク。君豈ニ我が恩
人ニ非ズヤ。某年月日。此橋上女ヲ救ヒシ事ヲ記スルヤ否

ト新右衛門頭ヲ傾ク顰眉シテ曰ク。今ニ五年、因テ往事
ヲ叙シ曰ク。妾還リ實ヲ以テ主翁ニ復シ。金ヲ奉シテ之ヲ
還ヘス。主翁咨嗟之ニ久フシテ曰ク。塗人尚ホ然リ。吾何ゾ
其金ヲ受クルニ忍ビンヤ。然リト雖モ未ダ之ヲ返ス。由
シアラス。吾將サニ權ニ藏メ以テ俟ツアラン。ス。期滿
ルニ及ビ。其金ヲ把テ妾ニ賜ベ曰ク。用斗以テ母子生活ハ
資ト爲シ。永ク其鴻惠ヲ存セヨト。推辭スレモ允サズ。乃チ
拜受シテ歸リ。具ケテ阿母ニ告ゲ。相對シテ泣ク。當時自ラ
誓テ曰ク。此恩ヲ忽略スルハ人ニ非ズ。昏黑間睥ヲ凝ラシ
テ諦視シ。粗風貌年齒ヲ認メ。之ヲ心肝ニ刻シ。常ニ神佛ヲ
祈リ曰ク。一タビ其人ヲ觀。口テ此恩ヲ謝スルヲ得ン。何詩
人ナルヲ知ラズト雖モ。安ンゾ知ラン。親故ノ此間ニ在

ルアツテ、重ネテ橋上ヲ經過スル無キコトヲ、因テ阿母ト與
モニ謀リ、貶フ所ノ金ヲ以テ、茶肆ヲ此ニ買ヒ、茶ヲ賣リ以
テ活ク。且ツ日夕注目シテ之ヲ求ム。今ニシテ果シテ之ヲ
觀ルヲ得タリ。何ノ喜ビカ爲レニ尚ヘン。且ツ泣キ且ツ語
ル言未ダ畢ハラザルニ、橋身斷裂シ、相推シテ溺ル。須臾ニ
シテ、浮屍川ヲ掩フ。踏ムデ濟ルバシ、携フル所ハ三人モ亦
溺中ニ在リ。新右衛門獨リ免ガル。ハテ得タリト。則チ文政
四年丁卯秋八月十五日ノ事ナリ。

櫻所子曰ク、白居易ノ詩ニ、貧始覺錢靈ノ句アリ。世上一擲
萬金、情ヲ含ムデ片言無キノ豪富アリト雖モ、亦僅カニ數
十金若クハ數金ノ爲メニ、父母凍餒シ、兄弟妻子離散シ、身
容、此無ク十尺ノ布、以テ其頸ヲ縊シ、數寸ノ菜刀、以

テ其胸ヲ割ラ死スルニ至ルアリ。誰カ豈ニ之カ爲メニ憫
然タラザランヤ。然リ而シテ世ノ浪費ヲ爲ス者、千金ヲ抛
チ、而シテ券ヲ斗錘ニ拵ク能ハサル。滔々皆是ナリ。新右衛
門卒然トシテ三十金ヲ路人ノ爲メニ抛チ、以テ其死ヲ拯
フ。真ニ必女ノ爲メニハ、神靈嗟ナラサルノ恩ヲ施コシ、而
シテ德ヲ吞ムデロセサル。豈惻隱ノ至ル者ニ非ズヤ。亦
損テ以テ漂溺ヲ免ガル。知ルリシ天ノ報應、昭然トシテ分
明ナルコトヲ、彼主翁ナル者、亦厚誼ニ感奮興起シ、金ヲ推シ
テ之ニ與フル者。及ビ女ノ日夜感刻、用意周到、久フシテ衰
ヘザル者、皆頑ヲ醒シ、懦ヲ立ツルニ足ル。抑モ米賈ハ、日ニ
贏輸ヲ爭フ。賭ト殊ナル無キ者ナリ。雖モ新右衛門ガ女
ノ生命ヲ買フノ餘カアル者、他無シ。其少ヨリ老ニ至ルマ

デ。既トシテ賈ニ服シ、故意興ヲ遣ルヲ敢テセザルニ
由ル。若シ夫レ其勤メニ倦メバ、則チ故意興ヲ遣ルヲ常ト
スル輩、囊底空罄シ、親姻故舊ノ急ヲモ救フ能ハズ、何ゾ惠
ヲ路人ニ及ボスノ餘裕ヲランヤ、嗚呼、貨財ノ用タル、以テ
人ヲ活スバク、以テ人ヲ殺スバク、以テ財貨山積スルノ富
ヲ爲スバク、以テ勇士猛卒ヲ使役マルノ強國タル可シ、而
シテ其靈ニシテ神ナル作用ハ、赤貧者ニシテ、後チ明驗シ
得ルモノトス。此神ニシテ靈ナル貨財ヲ以テ、嗜欲ノ爲メ
ニ徒消スルヲ知テ、産業ヲ興シ、學藝ヲ研シ、窮乏ヲ賑救ス
ルノ用ニ供シテ、功益アルヲ知ラサル者、恰カモ龍泉太阿
ヲ以テ菜根ヲ截ルガ如シ。思ハズンバアル可カラザルナ

第廿九 山中某賑恤ヲ以テ老境ヲ慰メタル事

總ノ人山中某ハ、貧賤ノ家ニ生レ、辛苦勤勉シテ、家ヲ興
ス。初メ四五圓ハ資本ニ過ギズ、而シテ齡耳順ニ垂ントス
ハ、至テ家産益昌ニシテ、積累巨萬ニ至ル。其人ニ貸與ス
ル者、幾萬金ナルヲ知ラズ。利子歲入、亦數千金某。人ニ語テ
曰ク、資産既ニ足ル、又何ゾ殷殖ヲ求メシヤ。心ヲ賑恤ニ存
シ、以テ老境ノ娛樂ト爲ス可キトシト。

櫻所子曰ク世ノ暴カニ富ム者ヲ視ルニ、初メ以爲ク千金
ヲ獲レバ則チ足ルト、既ニ千金ヲ獲レバ、則チ萬金ヲ期シ
萬ニ至レバ、則チ億ヲ期ス。露凝ノ欲、底止スル所ヲ知ラズ。
念ヲ累サネ慮リヲ積ミ、一身恆ニ利ノ驅役スル所トナリ。
安キ時アルヲ無シ、何ゾ人ノ窮乏ヲ賑恤スルニ違フン

や。而シテ俄然トシテ産ヲ傾クレバ、憂心快鬱トシテ解ク
ル時無ク、然ラザレバ死シテ蕩子ノ為メ、縶散セラレシ
ノミ、是レ猶ホ富ト雖氏貧シキガ如シ、自ラ足ルヲ知
テ心ヲ賑窮ニ存スル、山中氏ノ如キ、富有ニ素シテ富有ヲ
行フ者ト謂フ可キトル。

第三十 菊池孝兵衛儉朴ニシテ窮乏ヲ憫ミ事

菊池孝兵衛ハ、野列宇都宮ノ商賈ナリ、家驥ヲ佐野ト曰ス。
資財饒裕ニシテ、支店ヲ各處ニ置ク。孝兵衛人トナリ、瀟洒、
畛域ヲ設ケズ、賓客堂ニ構シ、詩酒談笑、毫モ倦色無シ。然レ
氏自ラ奉スル儉朴ニシテ、其常用ノ饌、見、概、不、漆、器、ノ、粗、糲、
ナル者タリ、其無用ノ奢ヲバハル。卒、不、此、類、ヲ、リ、嘉、永、癸、丑
巳後、國家多故、幕府政ヲ失ス。孝兵衛以爲ク世變則ルベカ

ラズ、宜ク田圃ヲ開キ、桑麻ヲ植エ、以テ安身ノ地ト爲スベ
ト野堀川ノ沿岸ナル。岡本系鳥ノ内村系燕、地
ヲ相テ、草萊ヲ披キ、溝洫ヲ疏シ、窮民ノ移シ、糧食及ビ費具
ヲ支給シ、業ヲ安政ハ卯ニ起シ、一ヲ又久辛酉ニ竣ハル。良
田ヲ得ル二百八十町、民家ヲ得ル五十四戸、人ヲ得ル二百
三十七口。號シテ菊池村ト曰フ。孝兵衛マタ慷慨國ヲ憂ヒ、
數千金ヲ費シテ、四方有志ノ士ニ給シ、遂ニ大橋順藏等ト
獄ニ下ダルニ及ベリト。孝兵衛天資忠厚、シテ窮乏ヲ憫
ム。飢渴ノ飲食ニ及ケルカ如クス。其宇都宮ニ在ル夜、衆
ハ、僕ヲ率キ、潛カ、一貧戸ヲ窺ヒ、金ヲ投ジテ去ル。人其誰カ
ハ、知ラズ。此ハ如クスハ者數ナリ、ハ、イフ。

櫻所子曰ク、富商大估ニシテ、詩酒談笑ヲ好ム、孝兵衛ノ如

キ者ハ則チ之レアリ、其自ラ奉ズル儉朴ナル孝兵衛ノ如
キ者亦間之レアリ、而シテ豫メ世變アルヲ知り、一身ノ計
ヲ爲シ、若干ノ窮民ヨシテ産業ヲ得セシメ、又以テ國家
爲メニ一利ヲ起スガ如キハ、商估中見ル能ハザル者タリ、
況ヤ窮乏ヲ憫卹スル、飢渴ノ飲食ニ於クルガ如キ、慷慨國
ヲ憂ヒ、有志一資給スル如キニ於テコヤ、産ヲ興シ業ヲ殖
スルニ汲々タル者、今日其人ニ乏シキニ非ルベシト雖モ、
豪商大估中、果シテ孝兵衛其人ノ、衆備ヲ兼ネ備フルガ如
キ者アリヤ、蓋シコレアラシ、未タ之ヲ見サルナリ。

第三十一 川北梅山儉素自ラ守ル事

梅山ハ伊勢ノ人ナリ、夙トニ才學文章ヲ以テ、拙堂ノ門ニ
名アリ、其學ニ在ル數年、風晨月夕、興來レバ則チ友ヲ呼ビ、

園蔬ヲ摘ミ、藜藿ヲ烹テ、同ク斟ミ、議論ヲ上下ス、後テ津藩
ノ教官トナル、維新ノ始メ、徵サレテ史官ニ任ス、其故舊之
ヲ聞キ以爲ク、必ズヤ石樓鐵柱、婢妾前ニ滿テ、賓客皆至シ
テ門市ヲ成シ、復タ清儉、舊梅山ニ非ルベシト、而シテ一
日其家ヲ過グレバ、則チ門庭蕭然トシテ、人跡ヲ絶ス、梅山
剥啄ノ聲ヲ聞キ、驚喜出テ迎ヒ、手ヲ把テ堂ニ上ボル、蘭麝
爲燭圖書山積ス、宛然タル儒士ノ居ナリ、其酒ヲ呼ブ、小鮮
半盃、蔬茹滿盤、供給淡如ナリ、乃チ曰ク、吾毎ネニ退食、賓客
ヲ謝シ、儉素自ラ養フ、蓋シ舊ヲ思レサルノミ、是ヲ以テ俸
餘積ム所、亦以テ殘年ヲ養フニ足ルト、是ニ於テ其前日想
像、梅山ヲ視ルノ淺キヲ悔ミタリシト、梅山唯家ヲ治ムル
儉素ノミナラス、公ニ奉ズル亦然リ、其太政官ニ在リ、官

中ノ會計ヲ總ブルヤ、冗費ヲ省フキ用度ヲ節シ、竹頭木屑ト雖、亦徒ラニ用キズ。同僚其能ク職任ニ勝ユルヲ稱セリトイフ。明治十年ノ春、朝廷經費ヲ節シ、官員ヲ減ズ。梅山與カレリ、乃チ人ニ謂テ曰ク、吾老テ勤メニ倦ム。今日綬ヲ解ク、實ニ優恩タリ。宜ク文酒風流ヲ以テ斯生ヲ終フヘシト。其園中ノ書樓ヲ名ケテ夢清トイフ。蓋シ姚武功カ、休官夢正清ノ句ニ取ルナリ。

櫻所子曰ク、王政維レ新タニシテ、封建ヲ廢シテ郡縣トシ、武家ノ常職ヲ褫ギ、賦兵ノ法ヲ定メラレシヨリ、恆産無キノ士族所在ニ之レアリ。其官途ニ奔競シ、門ヲ掃ヒ塵ヲ拜スルモノ、千百輩ナラズ。既ニ其攀援シ得ルニ至テハ、衣服居宅ヲ華美ニシ、聲色耳目ヲ悅バシメ、奢侈至ラサル無ク。

一朝之ヲ失ヘバ、忽チ凍餓ヲ支フルニ術無ク、耳ヲ帖シ尾ヲ搖カシテ憐ミヲ乞フ者アリ。悲憤慷慨、急カニ賈生ノ口吻ヲ學ブアリ。亦醜ナラストヤズ。而シテ纓ヲ濯ヒ冠ヲ擲ケテ後チ、悠游自適。風月ヲ嘲罵シ、山水ニ吟嘯スル。梅山其人ノ如キ者、果シテ幾人カアリシヤ。思フニ梅山ガ此ノ如クナルヲ得ル者ハ、是レ平素儉朴、自ラ守ルノ致ス所ニシテ、且タノ故ヲ以テ蹈襲シ得ベキニ非ルナリ。梅山カ養フ所ノモノ、亦貴バベキ所アリ。重ンスベキ所アリ。トウマス、ペイン氏曰ク、人ノ生涯ヲ送ル、恰モ數千里外ニ旅行スルガ如シ。衣食其他、渾テ行旅中能ク耐エ得ベキヲ以テ度ト。富ヲ得レバ、忽チ驕リ、貧ニ至レバ、號哭スル者、必竟生涯三萬六千日ハ、行旅中此ハ如クニシテ、能ク堪エ得ベキヤ。

日本書紀卷之八
否ヤヲ豫メ計ラザルニヨルト。梅山能ク此理ヲ知ル者ト
謂フベシ今日官途ニ在ル人果シテ官ヲ休メテ清夢ヲ結
ブ。梅山ノ如クナルヲ期スルヤ否ヤ。我が知ル所ニ非ズ。

第二十二 木村成壽居ヲ移ス事

木村成壽ハ。茨城縣治ノ南六里竹原邑ノ人ニシテ。邑ノ著
姓タリ。頗ル學問ヲ好ミ。況ク書史ニ通ズ。明治某年。居ヲ其
宅ノ東ニ移ス。其地爽塏ニシテ。陽ニ面シ。下モニ水田數十
頃アリ。長林之ヲ遠グル。土膏肥沃。景致幽邃。真ニ騷人隱士
ノ愛玩シテ忘ル。能ハザル所ナリ。人アリ成壽ニ謂テ曰
ク。子固ヨリ林泉ニ嘯傲スルノ士ニ非ズ。且ツ其故宅ハ。穹
檐大宇。閨闈ノ衢ニ在リ。何爲レゾ之ヲ去リ。而シテ別ニ新
居ヲ營ムヤ。成壽曰ク。僕ガ家世田八十石アリ。稼穡ノ利期

スベキナリ。本邑ノ地。東京往來ノ縣道ニ係ルヲ以テ。風俗
情盛。之ニ加フル。妓館アリ。絲竹喧譁ス。僕此間ニ居ル。使
役スル所ノ僮婢。皆淫靡ニ習レ。取テカヲ南畝ニ竭サス。故
ニ居ヲ此ニ遷シ。躬親カラ耕鋤シ。僮僕ヲ淬厲シ。彼ヲシテ
紛華ヲ慕ハシメザレバ。則チ荷頓ノ富致ス可カラスト。雖
氏倉穀ノ盈。或ハ期スベキナリト。成壽ノ父信義。潛德アリ。
行義ヲ以テ郷里ヲ服ス。性施與ヲ好ミ。粟ヲ郷閭單寡ナル
者ニ貸シテ。其恩ヲ録セズ。尤モ貧ニシテ償フ能ハザル者
ハ。亦之ヲ責メズ。邑人ノ之ヲ仰グ。父母ノ如クス。是ヲ以テ
家贍財無ク。時ニ或ハ之ヲ入ニ乞貸スルニ至ル。是嘗テ門
ヲ出テズ。暇アレバ。則チ兀坐書ヲ讀ミ。以テ樂ムト爲ス。其
祖信成。亦時ヲ惜マズ。以テ郷人ノ急ヲ濟ヘリト。世人成壽

カ勉勵彼が如クナルヲ見相告ゲテ曰ク其父祖ハ畜フル
所徳ニ在テ財ニ在ラズ成壽果シテ素封ヲ致ス所謂陰徳
アル者子孫必ス興ル者是ナリ而シテ諺ニ云フ其父苦辛
シ其子逸樂シ其孫乞貸ストハ富ノ時ム可カラザルヲ言
フ成壽ハ如キ能ク富ヲ致シ而シテ其家風ヲ墮ル無シ是
則チ君子富ムテ其徳ヲ行フ者其富長ク保ツ可キ也ト
櫻所子曰ク敵人ノ諺ニ謂ヘルコアリ曰ク自由ハ獨逸ノ
森林ヨリ出ヅト凡ソ人ノ志操氣力也者ハ富貴利達ニ由
テ消シ窮乏艱難ニ由テ長ス故ニ田舎ニ在テ有爲ノ志ヲ
把ケル壯士モ多年都府ニ住スレバ平素ノ氣力自ラ消耗
シテ優柔便佞ノ風ニ化スル者ナリ斯弊ヤ上智ト下愚ト
コ除クノ外ハ決シテ免ガルベカラザル者トス試ミニ山

陽頼翁カ前兵兒後兵兒ノ二詩ヲ蜀較セヨ其情狀一日
テ瞭然タラン其前兵兒ハ腰間ノ秋水ヲ撫シ人ノ頭ベニ
加ヘントスルノ意氣ヲ有シ其後兵兒即チ都門ニ留寓セ
ル薩兵兒ハ馬ヲ以テ妾ニ換エ脾肉ヲ生ヒルニ非ズヤ故
ニ麗衣鮮食名妓艶妾ハ氣力ヲ斬伐スルノ利斧ニシテ惡
衣粗食山林田野ハ氣力ヲ培養スルノ肥糞ナリ況ヤ繁盛
ノ都府鬧熱ノ世界ハ車馬絡繹黃塵天ニ漲リ利名ニ奔競
シテ其思想ヲ鍛鍊スルニ暇マ無シ田舎ハ閑靜ニシテ總
テ書ヲ讀ミ理ヲ思ヒ術業ヲ修ムルニ宜シ亦其鮮麗華美
艶羨スベキ者ヲ見ザルヲ以テ自ラ勢利ニ奔競スルノ念
少シ視ヨ古來都會ニハ人材ノ生ズルヲ希ニシテ英俊ノ
士多ク僻土ニ出ルヲ之ヲ以テ田舎ヲ出テ都府ニ來

住スル者。概ネ其黃塵ニ染ミ。人海ニ漂フノ久シキニ至レ
バ。自然ニ優柔浮薄ニ化シ。所謂江南ノ極。江北ニ接セハ。枳
穀ニ化スルノ類ナリ。是衣食住居ノ華奢ナルニ至テハ。都
會固ヨリ田舎ニ勝サルト雖。學術技藝ヲ鍛鍊スルハ。田
舎ニ若カザル所以ナリ。世ノ有爲ノ志ヲ抱クノ士ニシテ。
都會ノ浮華ヲ慕ヒ。貴重ノ氣力ヲ消費セバ。又一便佞狡猾
ノ市僧トナラン。其便佞ノ市僧タランヨリハ。賢口お
直ノ僧父タラン。晉ノ陶潛ハ。松菊ヲ慕フ。蘇軾ニ贊スルヲ思フ。
我ハ氣力ノ消耗ヲ懼ル。ナリ。殊ニ慨ム。少年書生。學術未
ダ熟セズ。師友猶ホ乏シキニ非ルモ。徒ニ都會ノ浮華ヲ慕
フガ爲メニ。負笈擔簦。鄉關ヲ離レテ都門ニ來リ。其銳意ナ
ルハ。萬里海ニ航シ。英京佛都ニ留學スルモノアルニ至ル

而シテ始メ來ルマ。繁華鬧熱ヲ用テ。心悸シ目眩スルガ如
ク而シテ月日ヲ經ルニ隨テ。知ラズ識ラズ。浮華ノ習風ニ
染ミ。研學ノ資モ遂ニ聲色ノ爲ニ蕩盡シテ。良師益友ヲ求
ムルノ力無ク。業ハ半途ニシテ廢棄シ。亦鄉里ニ歸ルノ面
目無ク。都門ニ留ラントスルモ。桂玉ニ窘ムヲ奈何トモシ
難ク。平生ノ志操ハ之ガ爲ニ屈撓シ。餬口ノ計ヲ得ルヲ以
テ足レリトシ。或ハ微官ヲ甘ムジテ簿領ニ齷齪シ。或ハ厮
與僮僕トナリテ。奔走ニ衣食シ。人生研學ノ好期ヲ空過ス
ルノ不幸ニ陷ル者。多カラストセズ。此ノ如キハ則チ。紛華
ヲ慕フガ爲ニ。生涯ヲ誤ル者ト謂ハサルヲ得ズ。夫レ都門
ハ術業老熟ノ士ガ。名ヲ成シ身ヲ立ルノ地ト云フベキモ。
決シテ少年書生ガ業ヲ成スニ適スルノ地ニ非ス。豈啻ニ

